山梨市文化財調査報告書　第 32 集

西 田 遺 跡・栗 原 氏 屋 敷 跡

－県営畑地帯総合整備事業上栗原地区農道 2 号 (1 工区) 改良工事に伴う発掘調査報告書－

２０１９.３

山梨県峡東農務事務所
山 梨 市 教 育 委 員 会
昭 和 測 量 株 式 会 社

山梨市文化財調査報告書　第 32 集

西 田 遺 跡・栗 原 氏 屋 敷 跡

－県営畑地帯総合整備事業上栗原地区農道 2 号 (1 工区) 改良工事に伴う発掘調査報告書－

２０１９.３

山梨県峡東農務事務所
山 梨 市 教 育 委 員 会
昭 和 測 量 株 式 会 社

序

本書は県営畑地帯総合整備事業上栗原地区農道２号（1 工区）改良工事に伴って行われた西田遺跡および栗原氏屋敷跡発掘調査の報告書です。調査地周辺は栗原氏の館跡に比定されており、調査地に隣接する妙善寺境内には館の守護神と伝えられる荒神堂があったことが知られています。調査は 722㎡の範囲を 4 区画に分けて行われました。

調査では中世から近世の水路や流路、土塁や堀らしき遺構が発見されました。また、甲州金の一種である新甲金の甲安中金が出土しましたが、市内ではこれまで他に例を見ないもので、貴重な発見となりました。

最後になりますが、調査を担当していただいた昭和測量株式会社の皆様をはじめ関係各位に心から感謝申し上げ、序といたします。

平成 31 年3月

山梨市教育委員会
教育長　市川今朝則

例　言

1. 本報告書は、山梨県山梨市上栗原字西田 11 番５外に所在する西田遺跡・栗原氏屋敷跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は県営畑地帯総合整備事業上栗原地区農道２号 (1 工区) 改良工事に伴う発掘調査であり、山梨市教育委員会監理の下、昭和測量株式会社が調査を実施した。
3. 調査監理は現地調査を山梨市教育委員会生涯学習課の駒田真人、整理作業を雨宮弘聡が担当し、調査実施は昭和測量株式会社の髙野高潔が現地調査及び整理作業を担当した。
4. 本調査に関わる費用は山梨県峡東農務事務所が負担した。
5. 発掘調査は平成 29 年１２月 15 日～平成 30 年３月 20 日にかけて実施し、整理・報告書刊行業務は平成 30 年９月 25 日～３月 11 日まで実施した。
6. 発掘調査および本報告書の執筆は、
   第１章を雨宮弘聡（山梨市教育委員会）、第４章第２節を新津健（昭和測量株式会社顧問）が担当し、その他と全体編集を髙野高潔（昭和測量株式会社）が担当した。
   遺物の実測・トレースは、今福ともみ・小宮山みや子・齋藤里美・佐野香織・広瀬ありさ・藤原由香・三木一恵・渡邉麗子が行った。遺物写真は、髙野が撮影を行った。
7. 本報告書で使用地図は、国土地理院発行の「石和」「塩山」（1:25000）を使用した。
8. 遺跡における X、Y 座標は世界測地系座標を使用している。
9. 古金貨密度測定は西脇康（東京大学史料編纂所所員・東京国立博物館客員研究員・日本計量史学会理事）に測定して頂いた。
10. 発掘調査および遺物の整理においては次の方々にご指導と御協力を賜った。感謝の意を表したい。
    出月洋文、河西学、小松美鈴、中山誠二、萩原三雄、畑大介、原正人、藤澤 明、三澤達也、
    香陽山妙善寺、甲斐黄金村湯之奥金山博物館（順不同、敬称略）
11. 本調査における図面・写真・遺物はすべて山梨市教育委員会で保管している。

凡　例

1. 遺構・遺物の挿図縮尺は、各挿図中に記載した。
2. 写真図版の縮尺は任意である。
3. 水糸レベルの数字は海抜高を示し、単位はメートル (m) である。
4. 土層断面、遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖 1990 年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
5. 遺物実測図の土器類は断面白抜き□が土師器、断面黒塗り■が須恵器、断面淡灰色▒が灰釉陶器を表している。土師器の濃灰色範囲▒は黒色処理範囲を表している。

目　次

序
例言
凡例
目次
挿図・表目次
第1章　調査に至る経緯・・・

挿図目次

第1図　遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・2
第2図　周辺の遺跡分布図・・・・・・・・・・3
第3図　栗原村絵図・・・・・・・・・・・・・4
第4図　栗原氏館推定地の地割・・・・・・・4
第5図　調査範囲・・・・・・・・・・・・・・4
第6図　調査区全体図・・・・・・・・・・・・7
第7図　1区1トレンチ・・・・・・・・・・・13
第8図　1区2トレンチ・・・・・・・・・・・14
第9図　1区3トレンチ・・・・・・・・・・・15
第10図　1区4トレンチ（1）・・・・・・・・16
第11図　1区4トレンチ（2）・・・・・・・・17
第12図　出土遺物　1区1～4トレンチ・・・18
第13図　2区（1）・・・・・・・・・・・・・19
第14図　2区（2）・・・・・・・・・・・・・20
第15図　出土遺物　2区・・・・・・・・・・21
第16図　3区（1）・・・・・・・・・・・・・22
第17図　3区（2）・・・・・・・・・・・・・23
第18図　3区（3）・・・・・・・・・・・・・24
第19図　3区（4）・・・・・・・・・・・・・25
第20図　3区（5）・・・・・・・・・・・・・26
第21図　出土遺物　3区（1）・・・・・・・27
第22図　出土遺物　3区（2）・・・・・・・28
第23図　出土遺物　3区（3）・・・・・・・29
第24図　出土遺物　3区（4）・・・・・・・30
第25図　4区（1）・・・・・・・・・・・・・31
第26図　4区（2）・・・・・・・・・・・・・32
第27図　出土遺物　4区（1）・・・・・・・33
第28図　出土遺物　4区（2）・・・・・・・34
第29図　全体図・・・・・・・・・・・・・・43
第30図　1区・2区　中世土器・陶器・・・・47
第31図　3区　中世土器・陶器・・・・・・・48

表目次

表1　遺物観察表・・・・・・・・・・・・・35

第1章　調査に至る経緯

山梨県峡東農務事務所では平成 21 年度以降、上栗原地区で畑地帯総合整備事業を行っており、今回調査対象となった農道 2 号（第 1 工区）改良工事もその一環として行われた。

農道 2 号周辺は、山梨市教育委員会と峡東農務事務所の事前協議により、西田遺跡および栗原氏屋敷跡に該当していることが明らかになっており、平成 28 年 7 月 22 日に埋蔵文化財発掘の通知が峡東農務事務所より山梨市教育委員会に提出され、平成 29 年 3 月 22 日から 24 日にかけ山梨市教育委員会による試掘調査が行われた。試掘調査の結果、全体的に土師質土器片の出土がみられたこと、版築の可能性のある砂層の分布がみられたことから、今回の発掘対象地である 722㎡について遺跡の保護について峡東農務事務所と山梨市教育委員会で協議を行った結果、記録保存調査を行うこととなった。

業務の都合により山梨市教育委員会による調査が困難であったため、峡東農務事務所は昭和測量株式会社に調査を委託、10 月 27 日に山梨市教育委員会を含めた三者協定を結び山梨市教育委員会が調査の監理をすることとし、11 月 1 日に文化財保護法 92 条の届出が昭和測量株式会社から山梨市教育委員会に提出され、11 月 27 日に山梨県教育委員会が埋蔵文化財発掘調査について昭和測量株式会社に通知、12 月 15 日から調査に着手する運びとなった。

第2章　遺跡の立地と歴史的環境

第1節　遺跡の立地

西田遺跡・栗原氏屋敷跡は山梨県山梨市の南端に位置する（第1図）。甲府盆地の東縁に当たり、東方には標高 1,000 ～ 2,000m 級の小金沢連峰がある。当遺跡は小金沢連峰を源とする日川の右岸に位置し、東から西へと緩やかに下る平地上に立地する。標高は約 320m である。

日川は小金沢連峰を南下し、山地から甲府盆地へ出ると西へ流れを変える。西流した日川は笛吹川へと合流し甲府盆地の南縁を更に西へ流れる。甲府盆地南端で笛吹川は釜無川と合流して富士川となり甲府盆地を出て太平洋へと注いでいる。日川は明治 40 年、43 年の水害が知られており、特に明治 40 年の大水害では８月に５日間続いた大雨により、甲府盆地東部の峡東地域中心に多大な被害が出ている。日川を含む周辺の重川や御手洗川、金川、笹子川の上流域で山の崩壊が多発し、押し流されてきた土砂や大水により家屋の倒壊や集落の孤立、耕地の流出や埋没、交通の寸断など甚大な被害が出ている。

西田遺跡と栗原氏屋敷跡は北と南で隣接しており、調査地点は両遺跡にまたがり位置する（第２図）。南側の栗原氏屋敷跡は日川右岸の自然堤防上の微高地にあり、北側の西田遺跡はその後背地に立地する。微高地と後背地の境には、日川から取水した用水堰が西流している。先の水害時には後背地には土砂が流入し堆積したが、微高地は被害を免れたと言われている。現在の大まかな土地利用区分は、微高地上が寺社地・宅地、後背地が耕地となっている。

西田遺跡・栗原氏屋敷跡の南側は国道 411 号に面している。ここで面している国道 411 号の区間は旧国道 20 号であり、旧甲州街道である。旧甲州街道は日川に沿って東へと延び、勝沼を経て山地に入り笹子峠に続いている。この経路は山に囲まれた甲府盆地へ出入りする主要な経路の一つである。また、日川に沿って西へと延びた街道を進むと笛吹川に当たる。笛吹川を渡り石和を経て甲府へと続いている。西田遺跡・栗原氏屋敷跡は甲府盆地の東の玄関口であり、笛吹川の手前から甲府を見晴らせる高台の要衝の地に立地している。

第2節　歴史的環境

西田遺跡（1）は縄文時代・平安時代遺跡として範囲東西約 200m、南北約 200m、栗原氏屋敷跡（2）は中世の遺跡として範囲東西約 350m、南北約 250m の規模で周知されている（第2図）。調査地点（☆印）は南北に隣接する両遺跡にまたがり位置している。栗原氏屋敷は 14 世紀後半に甲斐守護を勤めた武田信成の子、武続を祖とした栗原氏の城館跡である。寛永８年に栗原氏断絶後、大翁寺を建立し現在に至

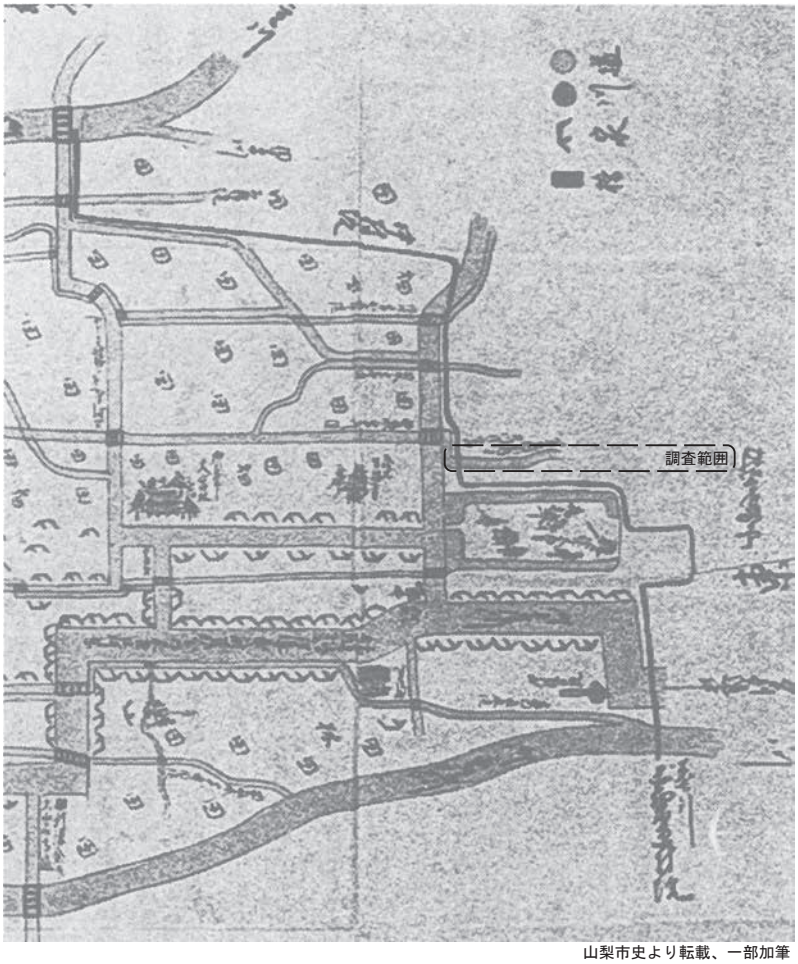
第１図　遺跡位置図

るとされ、文化３年の「栗原村絵図」には大翁寺境内を取り囲み土塁が残る様子が描かれている（第３図）。この土塁の東側部分は現在でも比較的明瞭に判別でき、北側部分も盛り上がりを確認することができる。栗原氏屋敷跡は大翁寺域に加え妙善寺、海島寺、大法寺を含む範囲を比定している（第４図）。大翁寺の北東となる妙善寺境内には荒神堂があったとされ、大翁寺の南西角の弁財天とともに館の守護神と伝えられている。妙善寺は康正元年に死去した栗原出羽守を開基とし、海島寺は開基を武田信虎の伯母、二世を信玄の伯母と伝えている。大翁寺所蔵の栗原氏系図には「法性海道寺入道」「海洞寺法性」の名が記されている。妙善寺、海島寺、大法寺はそれぞれ１町四方の規模を持つ方形区画であるが、各地区が時期の異なる方形居館の変遷を示しているのかは明らかとなっていない。幅の広い堀と土塁で防御が施された時期の館は大翁寺境内を中心にしたものと推定され、15 世紀末頃から 16 世紀前半に整備された居館とされている。

調査地点は栗原氏屋敷跡に比定されている北辺に当たる。屋敷跡北辺を東西に道が延び、その道に沿って日川から取水した用水堰が西流している。一部に現況では見えない水路の分岐も認められる（第５図）。

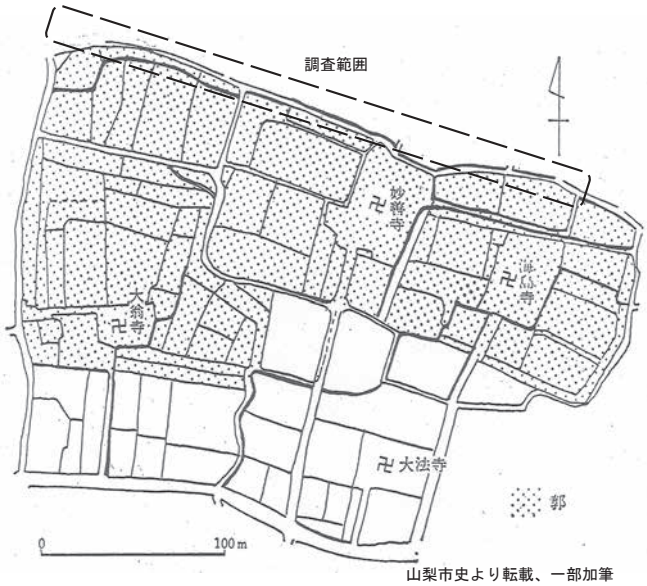
縄文時代・平安時代の西田遺跡、中世の栗原氏屋敷跡が位置する山梨市南部地域には、縄文時代から中近世にかけての遺跡が多数分布している。時代を追って主な遺跡を挙げると、高畑遺跡（３）では土偶を多出する縄文時代中期の大規模集落や平安時代の大野郷の中核的な集落などが明らかとされている。堀ノ内遺跡（４）では弥生時代の焼失住居から豊富な遺物が検出されている。古墳時代の遺跡では、横穴式石室から鉄刀、刀子、馬具、玉類が出土した沖田無名墳（５）、横穴式石室から鉄刀や須恵器が

第２図　周辺の遺跡分布図



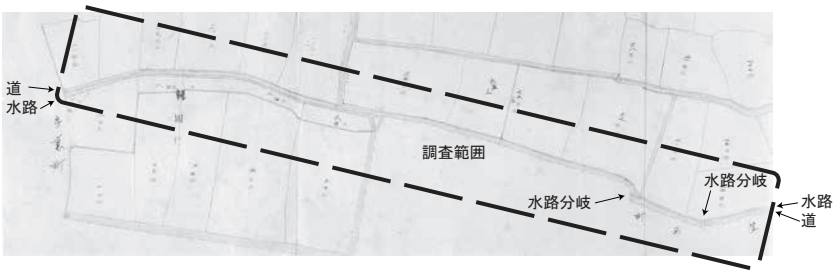
山梨市史より転載、一部加筆

第３図　栗原村絵図



山梨市史より転載、一部加筆

第４図　栗原氏館推定地の地割



第５図　調査範囲

出土してる中堰無名墳（6）がある。杉ノ木遺跡（7）では墨書土器も出土した平安時代の集落跡が確認されている。中近世では調査地点北東に隣接して『甲斐国志』が養安寺境内と伝える栗原氏屋敷跡（8）がある。また、東後屋敷の武田金吾屋敷も栗原氏一族の屋敷跡と推定されることからも、栗原氏の屋敷が大翁寺境内に一貫して存在したかは不明とされる。また、調査地より3km ほど東には武田信虎の弟勝沼五郎信友とその子信元の居館とされる勝沼氏館跡や、武田氏一族の岩崎氏六代の居館とされる岩崎氏館跡がある。大野砦跡（9）は天正壬午の戦いに際した城砦とされる。琵琶塚（10）は御嶽堂山とも称され春彼岸には祭典が行われていたという。寛政年間に描かれた『甲州道中分間延絵図』には三峯大御嶽塚の記載もみられる。田安陣屋跡（11）は延享4年に設置され明治三年まで存続した田安家の陣屋である。

そのほか上手原遺跡（13：縄文）、宗高東遺跡（14：縄文）、大林北遺跡（15：縄文・弥生・古墳・平安・中世）、松畑東遺跡（16：縄文・古墳・奈良）、天神前東遺跡（17：縄文・平安）、上石森塚越遺跡（18：縄文・平安）、東小路遺跡（19：縄文・平安）、天神前遺跡（20：縄文・平安・中世）、屋敷添遺跡（21：縄文・平安・中世）、宗高南遺跡（22：弥生・古墳）、紺屋町遺跡（23：弥生・古墳・平安）、鍛冶屋久弥遺跡（24：古墳）、宗高西遺跡（25：古墳）、榎木遺跡（26：古墳）、松畑西遺跡（27：古墳）、御嶽堂遺跡（28：古墳）、間之田西遺跡（29：古墳・平安）、雲林遺跡（30：古墳・平安）、金山林遺跡（31：古墳・平安）、上沼遺跡（32：古墳・平安）、上町遺跡（33：古墳・平安・中世）、上黒木遺跡（34：奈良・平安・中世）、間之田東遺跡（35：平安）、五躰尊遺跡（36：平安）、前田遺跡（37：平安）、宮ノ上遺跡（38：平安）、榎木田遺跡（39：平安）、宗高北遺跡（40：平安）、天神前北遺跡（41：平安）、市道遺跡（42：平安）、宮ノ前遺跡（43：平安）、金山遺跡（44：平安）、歌田金桜遺跡（45：平安）、西条遺跡（46：平安）、宮後遺跡（47：平安）、北川通遺跡（48：平安）、大林南遺跡（49：平安）、中道北遺跡（50：平安）、中道南遺跡（51：平安）、三宮寺遺跡（52：平安・中世）、九ツ塚遺跡（53：平安・中世）など多数の遺跡が分布している。

参考文献

日川村誌編纂委員会 1959『日川村誌』
山梨県教育委員会 1977『（伝）岩崎館跡発掘調査報告書』
山梨市役所 2005『山梨市史』史料編考古・古代・中世

第3章　調査の方法と成果

第1節　調査の方法

発掘調査は平成 29 年 12 月 15 日に開始し、平成 30 年3月 20 日に終了した。調査区は4ｍ幅の道路が東西に約 250 ｍ延びている形状である。調査区は四つに区分し、西から東へ1区から4区とした（第6図)。各調査区の大まかな調査順序は、1区、2区、4区、3区である。合計の調査面積は 722㎡である。以下に、従事した各調査区の作業期間と内容を示す。

1区では 12 月 18 日に重機による表土除去を開始。12 月 19 日に表土等掘削段階確認を行い、1月 18 日に遺物包含層掘削・遺構掘削段階確認を行った。1月 19 日に埋め戻しをした。1区では4ヶ所トレンチを設定し、包含層の掘削、遺構と遺物の検出を行った。主に中世と平安時代の遺構・遺物を検出した。トレンチ4ヶ所の合計調査面積は 128㎡である。

2区では2月3日に重機による表土除去を開始。2月6日に表土等掘削段階確認を行い、2月 15 日に遺物包含層掘削・遺構掘削段階確認を行った。2月 19 日に埋め戻しをした。2区では全面を表土掘削し 126㎡の調査面積において、包含層の掘削、遺構と遺物の検出を行った。主に中世と平安時代の遺構・遺物を検出した。

4区では2月3日に重機による表土除去を開始。2月6日に表土等掘削段階確認を行い、2月 28 日に遺物包含層掘削・遺構掘削段階確認を行った。3月 12 日に埋め戻しをした。4区では全面を表土掘削し 120㎡の調査面積において、包含層の掘削、遺構と遺物の検出を行った。主に近世と近代の遺構・遺物を検出した。

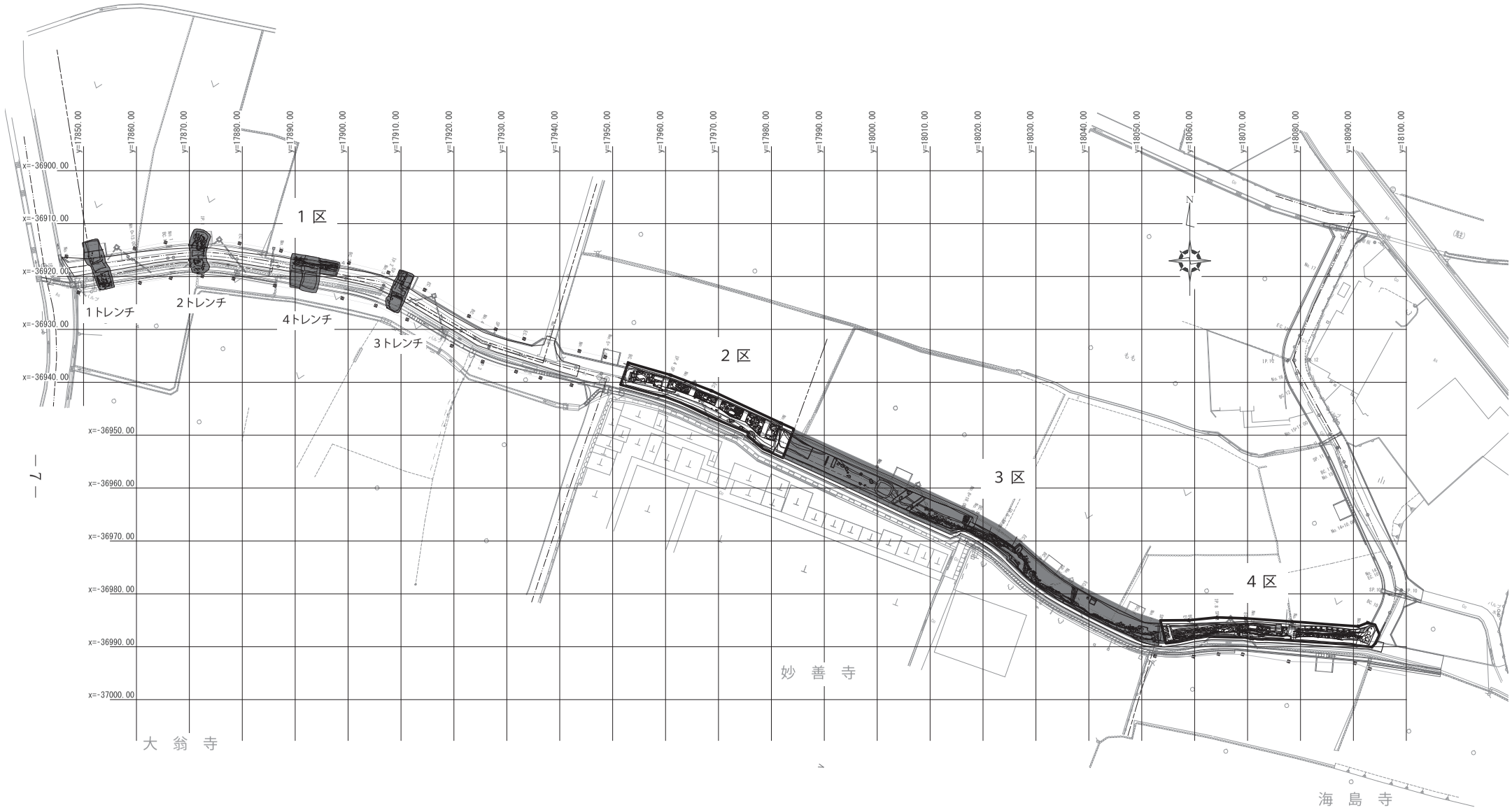
3区では2月 19 日に重機による表土除去を開始。2月 24 日に表土等掘削段階確認を行い、3月 16 日に遺物包含層掘削・遺構掘削段階確認を行った。3月 20 日に埋め戻しをした。3区では全面を表土掘削し 348㎡の調査面積において、包含層の掘削、遺構と遺物の検出を行った。主に中世と近世の遺構・遺物を検出した。3月 20 日の3区埋戻しをもって現場を終了し、3月 26 日に埋蔵物発見届を日下部警察署に提出した。

遺構や遺物出土地点等の記録作業は、写真撮影、実測、測量等により適宜実施した。空中撮影は各調査区で実施し、合計4回撮影した。

遺物包含層及び遺構から出土した遺物は順に番号を付して、トータルステーションシステムを使用して位置を計測し取り上げを行った。小破片については一括出土遺物として取り上げた。遺構・遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。

遺構の計測および土層断面・遺物出土状況図の写真測量は、CUBIC 社製トータルステーションシステム電子平板「遺構くん」および Agisoft 社製「PhotoScan Professional」を使用した。「遺構くん」、「PhotoScan Professional」により作成した図面および補正した写真測量写真から adobe 社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」を使用して全体図、個別図、土層断面図を作成した。

整理作業は出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、調査報告書編集、版下データ作成を行った。遺物の実測は手描きで行い、実測図をスキャナーでデジタルデータに変換した。トレースから調査報告書の版下データ作成までは adobe 社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」を使用してデジタルデータで行った。遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。


1区
2区
3区
4区
1トレンチ
2トレンチ
3トレンチ
4トレンチ
大翁寺
妙善寺
海島寺
x=-36900.00
x=-36910.00
x=-36920.00
x=-36930.00
x=-36940.00
x=-36950.00
x=-36960.00
x=-36970.00
x=-36980.00
x=-36990.00
x=-37000.00
y=17850.00
y=17860.00
y=17870.00
y=17880.00
y=17890.00
y=17900.00
y=17910.00
y=17920.00
y=17930.00
y=17940.00
y=17950.00
y=17960.00
y=17970.00
y=17980.00
y=17990.00
y=18000.00
y=18010.00
y=18020.00
y=18030.00
y=18040.00
y=18050.00
y=18060.00
y=18070.00
y=18080.00
y=18090.00
y=18100.00
N
0
1:1,000
50m

第６図　調査区全体図

調査体制

調 査 顧 問　新津健

調査担当者　現場・整理作業担当者：髙野高潔、基準点測量担当者：曽根孝、相川喜美雄、
空中撮影担当者：深沢洋樹、吉田奏司

発掘調査者：青柳正史、浅川晃一、長田秋文、小澤美幸、北野礼子、齋藤里美、土屋常子、
内藤敏夫、中澤保、原田隆邦、広瀬ありさ、松本榮一、三木一恵、横内光夫、
渡邉樹里、渡邉麗子

整理作業者：浅川悠起子、今福ともみ、尾川正美、小澤美幸、垣内律子、北野礼子、小宮山みや子、
齋藤里美、佐野香織、土屋常子、広瀬ありさ、藤原由香、三木一恵、渡邉麗子

使用システム

トータルステーション　TOPCON SOKKIA CX-105
電　子　平　板　Panasonic TOUGHBOOK CF-19
遺構実測支援ソフト　CUBIC 社「遺構くん」電子平板対応
写 真 測 量 ソ フ ト　Agisoft 社「PhotoScan Professional」
デ ザ イ ン ソ フ ト　adobe 社「illustratorCC」
写　真　ソ　フ　ト　adobe 社「PhotoshopCC」
編　集　ソ　フ　ト　adobe 社「InDesignCC」

第2節　調査の概要

調査区は現況の道路を拡幅する範囲である。道路は東西に延び、南縁に日川から取水する水路がある。北側は道路と同じ高さで続く耕作地、南側は道路より一段上がる高さに耕作地および妙善寺境内・墓域がある。段差部は水路の立ち上がりを延長するかたちで石積みやコンクリートブロックが積まれ土止めされている。調査区は四つに区分し、西から東へ1区から4区とした（第6図）。栗原氏屋敷跡の地割に当てはめると、1区は大翁寺の北側に当たる。大翁寺の北側の土塁から北に約９０mの位置で土塁と並行する区間である。2区と3区は妙善寺の北辺、4区は海島寺の北辺に当たる。各区とも地割の北辺に当たるため土塁や堀の遺構が想定された。

1区では南北方向に４ヶ所トレンチを入れ、断面で土塁や堀の遺構を検討した。トレンチの設定箇所は土塁の遺構想定を考慮して設定した。1区の東端は現況道路と南側の耕作地に比高差がなく平らなため、南側の一段高い耕作地との段差が明瞭な範囲を中心にトレンチを4ヶ所設定した。その結果、現況道路部分は水道の本管や何度も付け替えられた灌漑用水管による撹乱範囲が広いことが明らかとなった。また道路南側も、水路や一段高い畑地の擁壁により撹乱されていた。道路と同じ高さで続く北側の畑地では耕作土直下から白色の砂層が厚く堆積していることが分かった。地山の礫層まで掘り抜いた結果、いずれのトレンチでも南から北へ落ち込む土層が確認されたが、1・2トレンチでは撹乱範囲が広く明確な遺構は確認出来なかった。3トレンチでは落ち込みが埋没した後の面で中世の土師質土器が出土した。4トレンチでは落ち込みの埋土中から中世の土師質土器が出土し、落ち込みの下から東西に延びる石列を検出した。石列の埋土からは平安時代の土師器が出土した。石列は両端とも不明瞭になり、一定の大きさの石が向きを整えて二段に積まれている様子が検出できたのはわずかな範囲であった。

1区では地山礫層面および北側の土層断面で確認できる砂礫層の堆積状況から何度も水が流れていた

様子が分かった。調査区北側は河川の旧流路と思われる。また、地山礫層の上面では摩滅した縄文土器片も出土した。

2区は水道管や灌漑用水管の敷設がない区間として調査を開始した。途中で旧水道管の撹乱が２区南縁にのびていることが明らかとなったが、平面的に精査をすることができた。しかし、明確な遺構は検出できず、1区に比べて全体的に地山の礫層が浅いところで検出された。細かくは地山の礫層が検出できる高さには東側が高く西側では低いという変化があり旧流路が蛇行する様子が見て取れた。遺物は地山の礫層の上を覆う水性堆積の砂礫層の中から中世の土師質土器が近世の陶磁器と混ざって高い位置から出土している。平安時代の土師器は地山の礫層が落ち込む西側の深いところから出土しているが遺構として捉えることはできなかった。

3区は現況の道路部分に灌漑用水の本管が東西に敷設されている区間であった。また、３区西側の現況道路の幅が広い部分ではアスファルト舗装の下から埋められた旧水路のコンクリ壁が検出され、水路を付け替え道路を拡幅した時の撹乱範囲があることが判明した。3区の西側は2区の東側に引き続き地山の礫層が浅い位置で検出され、中世の土師質土器がまとまって出土している。３区の東側からは近世の水路が検出され、多量の陶磁器類とともに近世の甲州金が出土した。

4区は現況道路下に埋設管が敷設されていない区間で、4区を通して近世の水路が検出された。水路からは多量の陶磁器類や寛永通宝などが出土している。また、4 区の西側では近世の水路の上から、近代の石列と畑の畝が検出された。石列と畑の畝は明治 40 年の水害時に堆積したと考えられる厚い白砂層に覆われていた。4 区では地山の礫層は3区の東側と同様に深い位置で検出された。

調査区北側の耕作土下では一様に白砂層が堆積していることが確認できた。また、4 区では近代の石列の下から近世の水路が検出されていることなどから、近世以前は現況よりも北側が低い地形であったことが分かった。明確な土塁や堀の遺構は検出出来ていないが南と北の比高差があったことが分かった。

第3節　遺構・遺物

①1区1トレンチ（第7・12 図、写真図版2・14）

1区1トレンチでは明確な遺構は確認できなかった。主な遺物は､中世の土師質土器:かわらけ（1～5）、近世の磁器：碗（6）が出土している。

1区は 15 世紀末頃から 16 世紀前半の時期の栗原氏屋敷の中心と目される大翁寺境内の北側にあたる調査区である。幅の広い堀と土塁で防御が施された屋敷跡の様子が、大翁寺の東側の地形で現在でも比較的明瞭に判別でき、北側部分も土塁の盛り上がりを確認することができる。1区は北側に残る東西に延びた土塁から北に約９０mの位置で、土塁と並行する区間である。東西に細長い調査区の中で南側の畑地が高く北側の地面（水路・道路・北側の畑地）と段差がある地形のため、東西に延びる土塁や堀の遺構を想定して、これに直行する南北方向にトレンチを設定して地山の礫層まで掘り抜く調査を実施した。

1トレンチは東西に長さ 100 mの1区の中で一番西に位置する。方形区画の北西角の可能性がある調査区西端から約５mの位置に、幅３m、長さ 10 mのトレンチを南北方向に設定した。現況道路と南側の一段高い耕作面との比高差は約 60cm である。道路下約 1.6 mまで掘り抜き地山の礫層を検出した。

1トレンチでは現況道路部分は広く撹乱されていることがわかった。道路下に敷設された水道管本管や何度も付け替えられた灌漑用水管のためである。また、道路南側の水路や一段高い畑地の擁壁による撹乱もあり、全体的に調査区内の撹乱範囲が広いことが明らかとなった。また、土層断面からは南から北へと下る地形に礫層、砂層、砂質土層が互層に堆積する様子が観察でき、東から西へと流れる水流が強

弱をなし、日川の自然堤防の後背地が氾濫と安定を繰り返す様が見て取れた。遺物は砂質土層から出土している。南側の畑地の耕作土下に5cm 大の礫が集中する厚さ 10cm 程の層を検出したが、検出範囲が部分的であることもあり、明確な遺構とは確認出来なかった。また、北側の畑地では耕作面直下から白色の砂層が 60 ｃm程の厚さで堆積し、耕作土として撹拌されていることが分かった。

②1区2トレンチ（第8・12 図、写真図版2・14）

1区2トレンチでは明確な遺構は確認できなかった。主な遺物は、中世の土師質土器：かわらけ（1）が出土している。

2トレンチは1区の中で西から二番目に位置する。西から約 25 mの位置に、幅 3.5 m、長さ 8.5 mのトレンチを南北方向に設定した。現況道路と南側の一段高い耕作面との比高差は約 80cm である。道路下約 1.8 mまで掘り抜き地山の礫層を検出した。

2トレンチでも1トレンチと同様に撹乱範囲が広いことが明らかとなった。また、土層断面でも同様に南から北へと下る地形に礫層、砂層、砂質土層が互層に堆積する様子が観察できた。遺物は礫層からも摩耗した縄文土器片が出土している。また、北側の畑地では耕作面直下から白色の砂層が 30 ｃm程の厚さで堆積し、耕作土として撹拌されていることが分かった。

③1区3トレンチ（第9・12 図、写真図版3・14）

1区3トレンチでは明確な遺構は確認できなかった。主な遺物は､中世の土師質土器:かわらけ（1～3）が出土している。

3トレンチは1区の中で西から四番目に位置する。西から約 65 mの位置に、幅3m、長さ8mのトレンチを南北方向に設定した。現況道路と南側の一段高い耕作面との比高差は約 30cm である。道路下約 1.8 mまで掘り抜き地山の礫層を検出した。

3トレンチでも1・2トレンチと同様に撹乱範囲が広いことが明らかとなった。土層断面では1・2トレンチほど入り乱れずに、礫層、砂層、砂質土層が堆積し、北側へ礫層が落ち込む様子が観察できた。遺物は北側への落ち込みが、砂質土層により埋まり切った上面でまとまって出土している。また、北側の畑地では耕作面直下から白色の砂層が 50 ｃm程の厚さで堆積していることが分かった。

④1区4トレンチ（第 10~12 図、写真図版3~ 5・14）

1区4トレンチでは北側への落ち込みの下に東西方向に延びる石列を検出した。主な遺物は、平安時代の土師器：坏（1）、甕（2）、中世の土師質土器：かわらけ（3～8）、陶器：天目茶碗（9）、土器：内耳土器（10）、近世の磁器：碗（11 ～ 13）、蓋（14）、土器：内耳土器（15）が出土している。

4トレンチは1区の中で西から三番目に位置する。西から約 45 mの位置に、幅 3.5 m、長さ 6.5 mのトレンチを南北方向に設定した。現況道路と南側の一段高い耕作面との比高差は約 60cm である。道路下約 1.6 mまで掘り抜き地山の礫層を検出した。石列を検出したため、東へ幅 3.5 m、長さ3m、西へ幅2m、長さ 6.5 m拡幅した。

4トレンチでも撹乱範囲が広いことが明らかとなった。土層断面では1・2トレンチほど入り乱れずに、礫層、砂層、砂質土層が堆積していた。また、北側へ落ち込むような土層が観察できた。遺物は北側への落ち込みを埋める最上層となる白色砂層の直下から近世の遺物が、その下の砂質土の埋土から中世の遺物、更に下で検出した石列の付近からは平安時代の遺物が出土している。また、北側の畑地では耕作

面直下から白色の砂層が 50 ｃｍ程の厚さで堆積し、耕作土として撹拌されていることが分かった。この白色砂層は明治 40 年の水害時に堆積したと考えられ、落ち込み埋土の最上層である。北側への落ち込みは砂質土が堆積していくことで浅くはなっていたが、明治 40 年の段階ではまだ存在していたと考えられる。水害により砂層が厚く堆積したため、現況のように平坦な地形に変化したことが分かった。

1区では西側の1・2トレンチでは強い水の流れにより一気に砂や礫が堆積していることが分かったが、東側の3・4トレンチでは強い流れは確認できず、砂質土がゆっくりと堆積していた。

⑤2区（第 13~15 図、写真図版 5 ~ 7・14）

2区では明確な遺構は確認できなかった。主な遺物は、平安時代の土師器：坏（1～3）、中世の土師質土器：かわらけ（4～8）、皿（10）、陶器：天目茶碗（9）、片口鉢（14）、土器：内耳土器（11・12）、擂鉢（13）が出土している。

2区は妙善寺境内の北辺にあたる調査区である。妙善寺は大翁寺の北東に位置し、境内には栗原氏の館の鬼門を守護する荒神堂があったとされる。また、妙善寺境内が 1 町四方の規模の方形区画であることから、大翁寺地点よりも古い時期の栗原氏の方形居館があった可能性も考えられた。2区は方形の区画の北辺を北西の角から東に長さ 30 ｍ延びた､幅４～５ｍの細長い調査区である。南側の妙善寺境内(墓域）が高く、北側の地面（水路・道路・北側の畑地）との比高差は約２ｍである。2区では地山の礫層は道路下約 0.8 ～ 1.5 ｍで検出した。

2区は水道管や灌漑用水管の敷設がない区間として調査を開始し、旧水道管の撹乱が 2 区南縁にのびていることが明らかとなったが、比較的広い範囲で平面的に精査をすることができた。しかし、明確な遺構は検出できず、1区に比べて全体的に地山の礫層が浅いところで検出された。地山の礫層は東側が高く西側では低く、北西に下っている様子が分かった。地山面の起伏が旧流路が蛇行する様に変化している様子が見て取れた。遺物は地山の礫層の上を覆う水性堆積の砂礫層の中から中世の土師質土器が近世の陶磁器と混ざって高い位置から出土している。平安時代の土師器は地山の礫層が落ち込む西側の深いところから出土しており、水性堆積の砂礫層の下の砂質土層から出土している。水性堆積層中から出土する遺物が小破片となっているのに対し、砂質土中から出土している平安時代の坏は比較的原形をとどめる形で出土した。水が流れる以前の安定した時期のものと考えられるが、遺構として捉えることはできなかった。

また、土器の皿（10）には溶融物が付着しており、胎土は 2 次的な被熱が観察できることから、何らかの金属を溶融させる作業に用いられたものと考えられる。皿の出土層は水性堆積の砂礫層中である。

⑥3区（第 16~24 図、写真図版 7 ~11・14~16・17）

3区では中世の遺物集中区と近世の水路が検出された。主な遺物は、縄文時代の土製品：耳栓（1）、弥生時代の土器:壺（2）、中世の土師質土器:かわらけ（3～ 35）、陶器:皿（36）、土器:内耳土器（37・38）､擂鉢（39）､近世の磁器:小碗（40 ～ 42）､碗（43 ～ 48､53）､小皿（49）､皿（50 ～ 52）､鉢（53）、香炉（54）、油壺（55）、瓶（56・57）、仏飯器（58）、陶器：碗（59 ～ 62）、灯明皿（63 ～ 65）、秉燭（66）､仏飯器（67･68）､蓋（69）､片口鉢（70･71）､鉢（72）､擂鉢（73）､金属製品:煙管吸口（74・75）､甲州金（76）､古銭（77 ～ 79）が出土している。

3区も妙善寺境内の北辺にあたる調査区である。2区の東側に続く幅２～５m、長さ 80 ｍの調査区である。南側の妙善寺境内（堂宇域・墓域）と北側の地面（水路・道路・北側の畑地）との比高差は約1

～２ｍである。３区では地山の礫層は道路下約１～２ｍで検出した。

３区は現況の道路部分に灌漑用水の本管が東西に敷設されている区間であった。また、３区西側の現況道路の幅が広い部分ではアスファルト舗装の下から埋められた旧水路のコンクリ壁が検出され、水路を付け替え道路を拡幅した時の撹乱範囲があることが判明した。３区の西側は２区の東側に引き続き地山の礫層が浅い位置で検出され、中世の土師質土器がまとまって出土している。３区の東側からは近世の水路が検出され、多量の陶磁器類とともに近世の甲州金が出土した。近世の水路では地籍図にみられる水路の分岐箇所が検出された。甲州金が出土したのはこの水路が直角に曲がって分岐したばかりの箇所であった。

３区西側の北側には２区から続く水性堆積の砂礫層が一筋続いており２区同様にこの砂礫層の中からも遺物は出土したが、中世の遺物が集中して出土したのは、この砂礫層の流れより南側の平場状の箇所であった。地山の礫層は西側では浅いところで検出されが､東側では厚く堆積した砂層の下から検出され、２区とは反対に３区では地山の礫層は西から東に下っている様子が分かった。

⑦４区（第 25~28 図、写真図版 12~13・16・17）

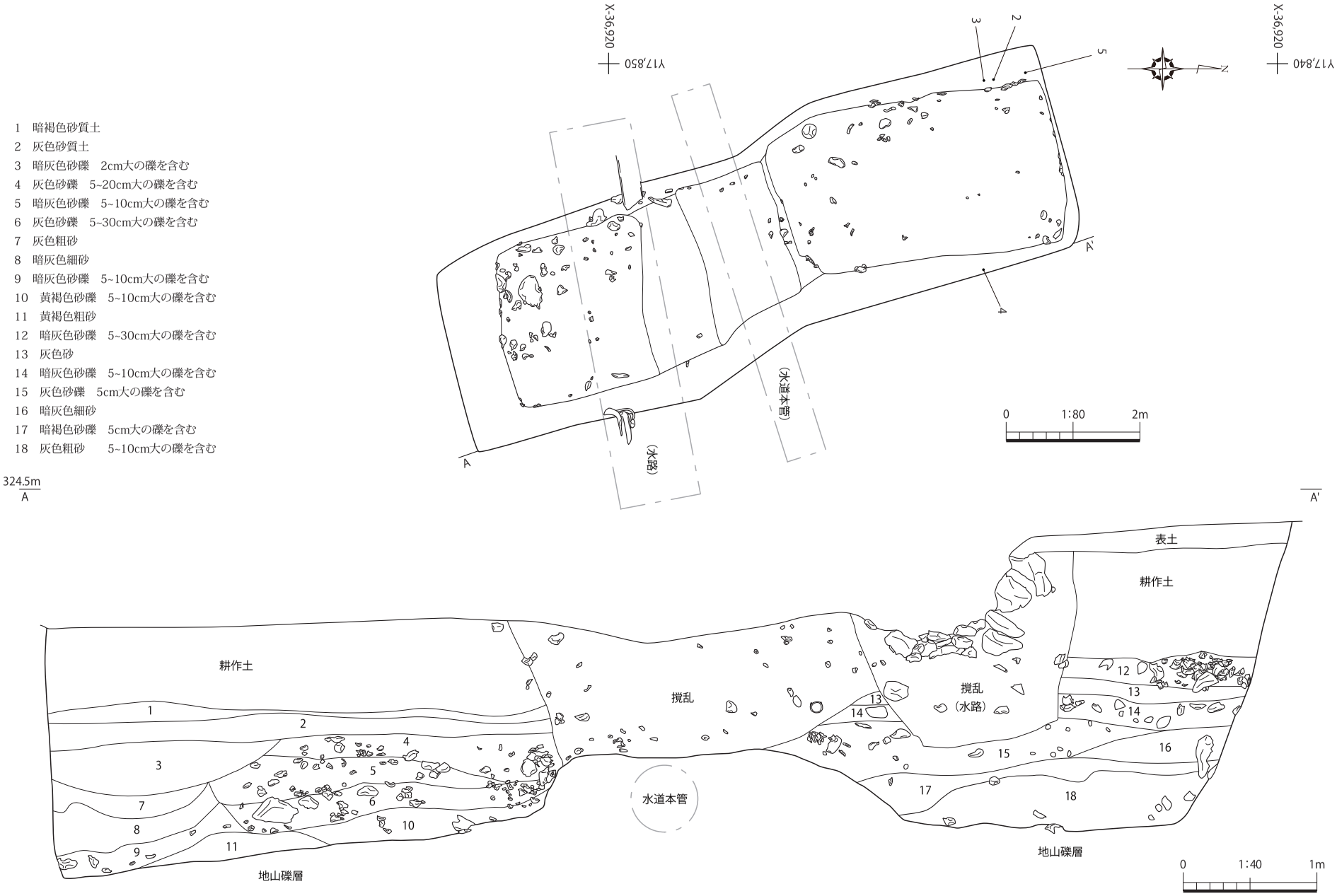
４区では近世の水路と近代の畑の畝が検出された。主な遺物は、中世の土師質土器：かわらけ（１～５)、土器：擂鉢（６)、陶器：常滑甕（７)、土製品：土製円盤（８・９)、近世の磁器：碗（10 ～ 12)、皿（13･14)、瓶（15)、陶器:天目茶碗（16)、碗（17 ～ 22)、皿（23)、おろし皿（24)、灯明受皿（25 ～ 27)、仏飯器（28・29)、擂鉢（30)、土師質土器：かわらけ（31・32)、土器：香炉（33 ～ 35)、内耳土器（36・37)、土製品：人形類（38)、金属製品：煙管吸口、古銭（40)、石製品：石臼（41 ～ 43)、軸受け石（44）が出土している。

４区は海島寺境内の北辺にあたる調査区である。海島寺は開基を武田信虎の伯母、二世を信玄の伯母と伝え、大翁寺所蔵の栗原氏系図には「法性海道寺入道」「海洞寺法性」の名が記されているような栗原氏縁の寺である。また、境内が１町四方の規模の方形区画であることから、大翁寺地点よりも古い時期の栗原氏の方形居館があった可能性も考えられた。４区は方形の区画の北辺の北西の角から東に長さ 40 ｍ、幅３ｍの細長い調査区である。現況では調査区と海島寺境内とは 20 ｍほど離れており、その間は畑地として耕作されている。南側の畑地が高く、北側の地面（水路・道路・北側の畑地）との比高差は約 30 ｃｍである。４区では地山の礫層は道路下約２ｍで検出した。

４区は現況道路下に埋設管が敷設されていない区間で、４区を通して現況道路の下から近世の水路が検出された。水路からは多量の陶磁器類や寛永通宝などが出土している。また、４区の西側では近世の水路の上から、近代の石列と畑の畝が検出された。石列と畑の畝は明治 40 年の水害時に堆積したと考えられる厚い白砂層に覆われていた。また、明治期の石列は近世の水路の石積みの上に継ぎ足したものではなく、列を違えて並べていることが分かった。近世の水路の南側では現況よりも低い位置で道が検出された。現況では水路の北側が道路であるが、近世では水路の南側に道があり、水路が埋まりその上に石列を並べ直した後、新たな水路の北側が道と変えられたことが分かった。また、石臼（43）は近世の水路の石積みに転用された状態で出土した。

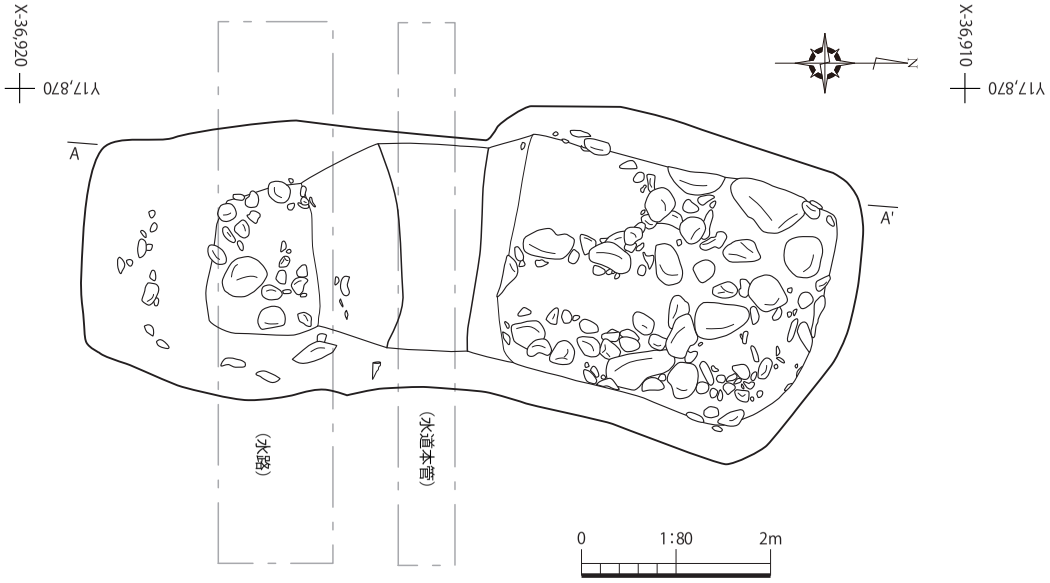
４区では地山の礫層は３区の東側と同様に厚い砂層の下から深い位置で検出された。また、土層の観察から現況では一段高い調査区南側の畑地は客土されていることが分かった。近世では水路も道も現況よりも低い位置にあり、客土されている海島寺の北側の畑地も当時は現況よりも低かったものと考えられる。

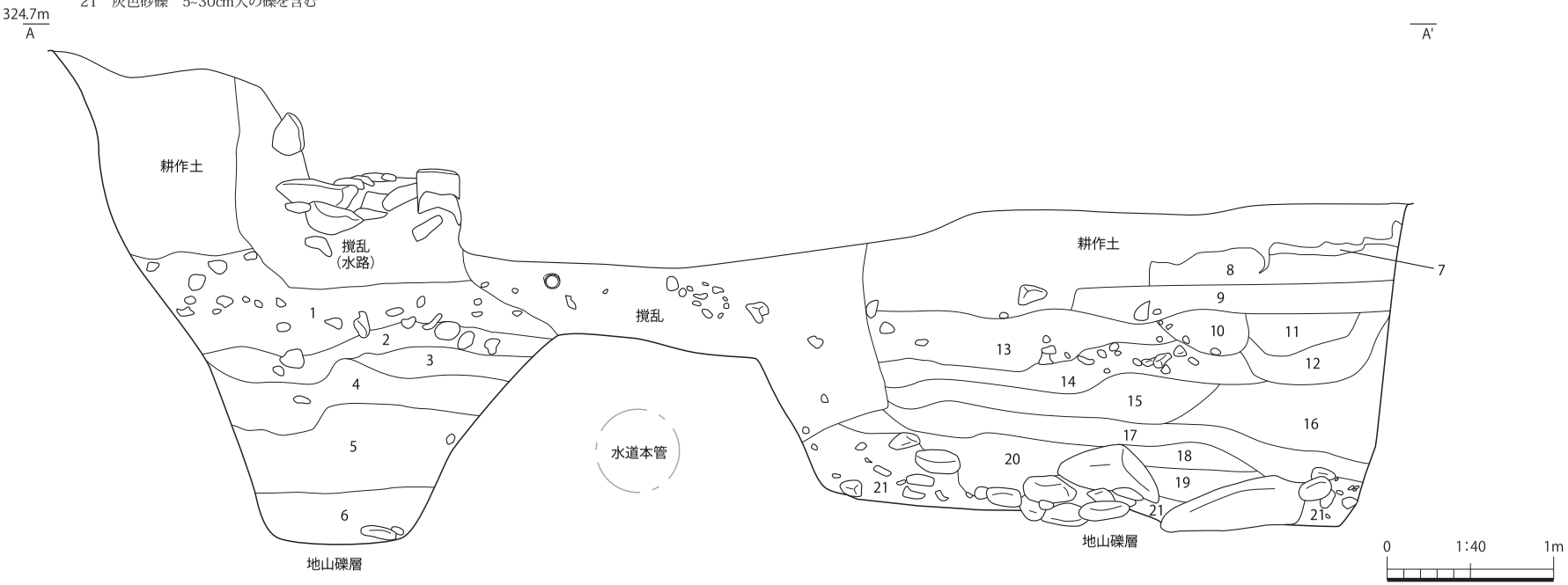
1　暗褐色砂質土
2　灰色砂質土
3　暗灰色砂礫　2cm大の礫を含む
4　灰色砂礫　5~20cm大の礫を含む
5　暗灰色砂礫　5~10cm大の礫を含む
6　灰色砂礫　5~30cm大の礫を含む
7　灰色粗砂
8　暗灰色細砂
9　暗灰色砂礫　5~10cm大の礫を含む
10　黄褐色砂礫　5~10cm大の礫を含む
11　黄褐色粗砂
12　暗灰色砂礫　5~30cm大の礫を含む
13　灰色砂
14　暗灰色砂礫　5~10cm大の礫を含む
15　灰色砂礫　5cm大の礫を含む
16　暗灰色細砂
17　暗褐色砂礫　5cm大の礫を含む
18　灰色粗砂　　5~10cm大の礫を含む



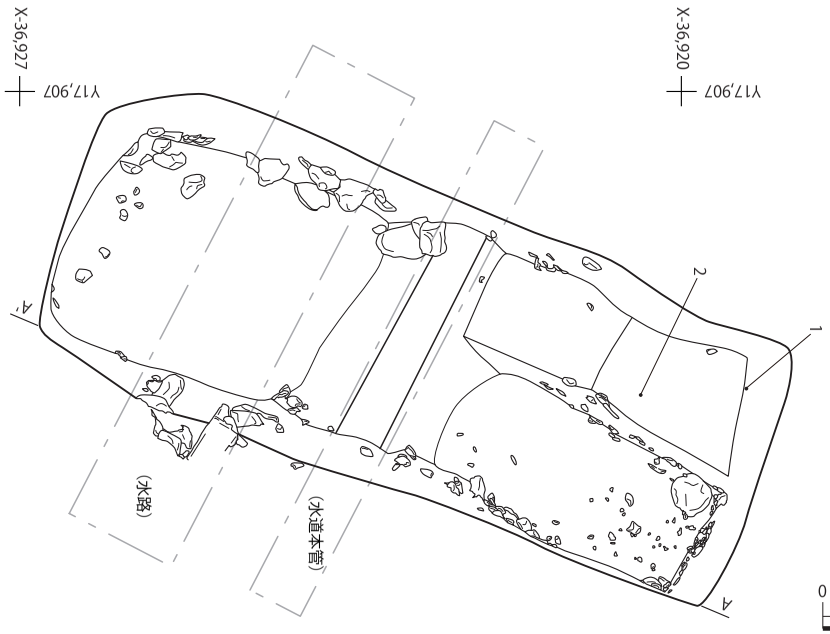
第7図　1区1トレンチ

1　灰色砂礫　5~10cm大の礫を含む
2　暗褐色砂礫　5~10cm大の礫を含む
3　暗褐色粗砂　5cm大の礫を含む
4　灰色砂　5~10cm大の礫を含む
5　暗灰色細砂
6　暗灰色粗砂
7　白色粗砂
8　暗灰色砂質土
9　暗褐色砂質土
10　黒色砂質土
11　灰色粗砂
12　暗灰色細砂
13　暗灰色砂質土　5~10cm大の礫を含む
14　暗褐色砂質土　5~10cm大の礫を含む
15　白色粗砂
16　灰色砂礫　5cm大の礫を含む
17　暗灰色細砂
18　灰色砂礫　2cm大の礫を含む
19　暗灰色砂
20　灰色砂
21　灰色砂礫　5~30cm大の礫を含む

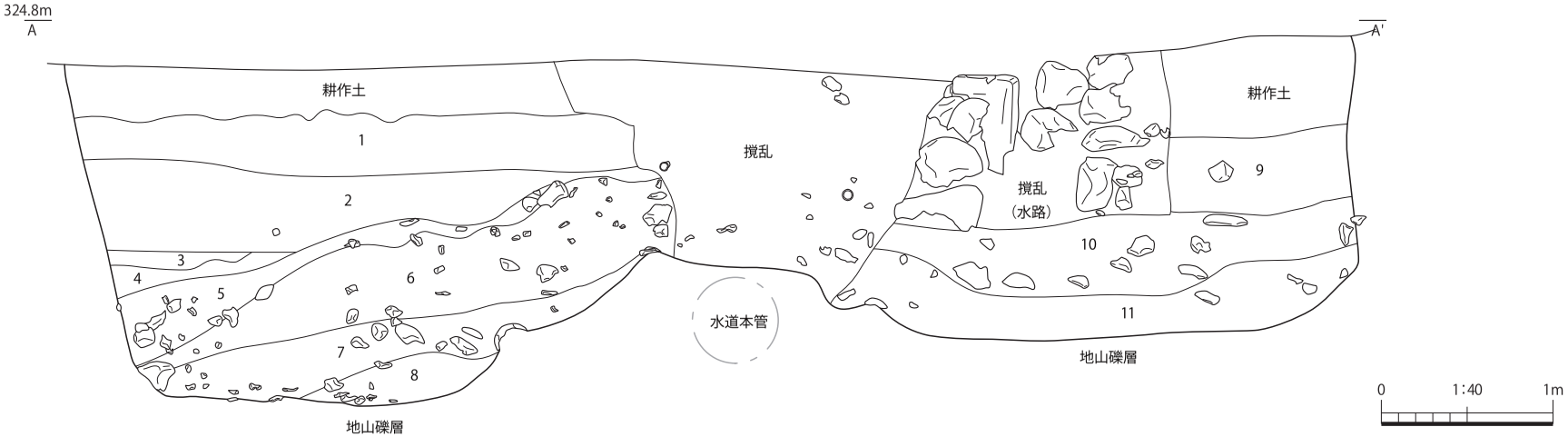




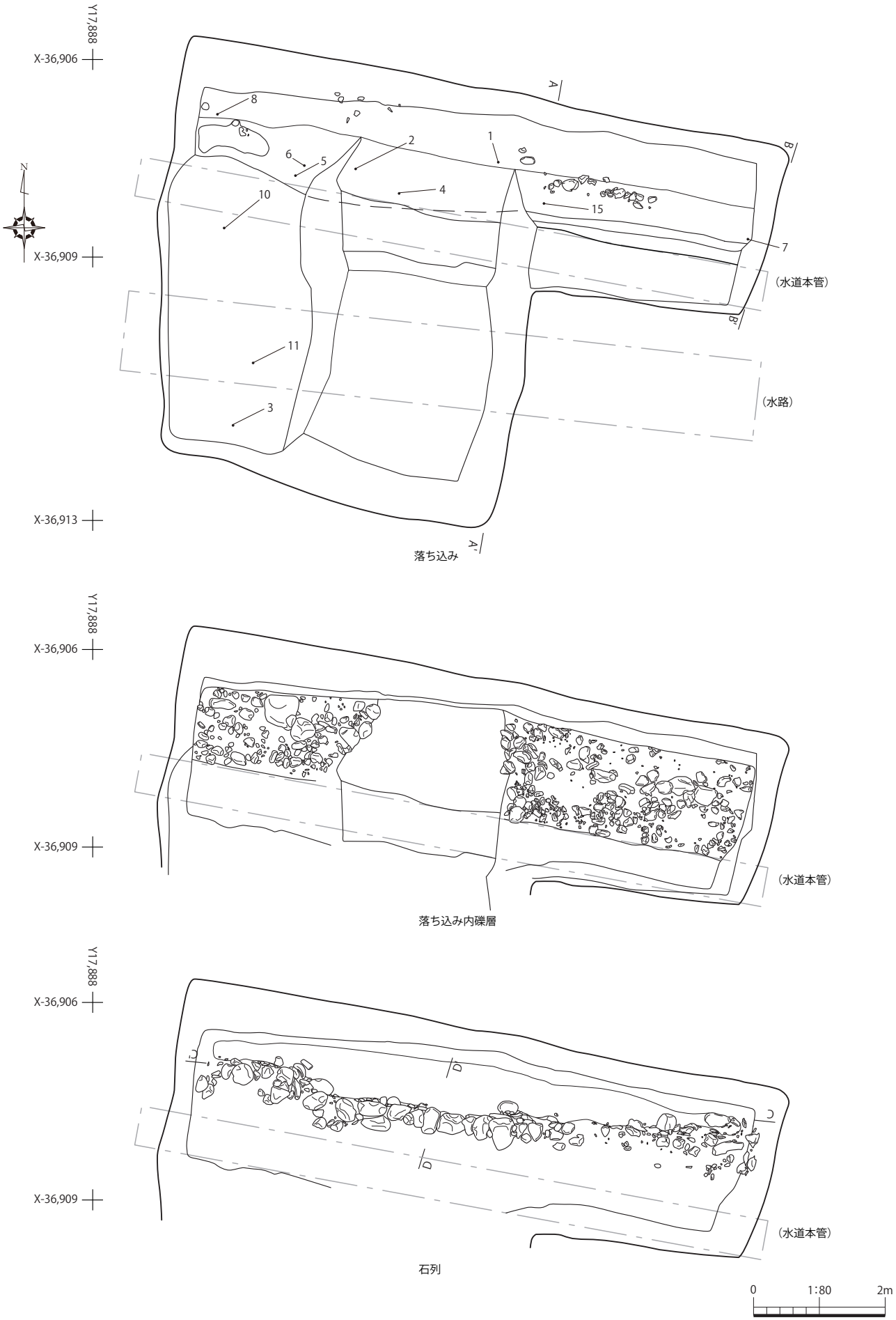
第８図　１区２トレンチ



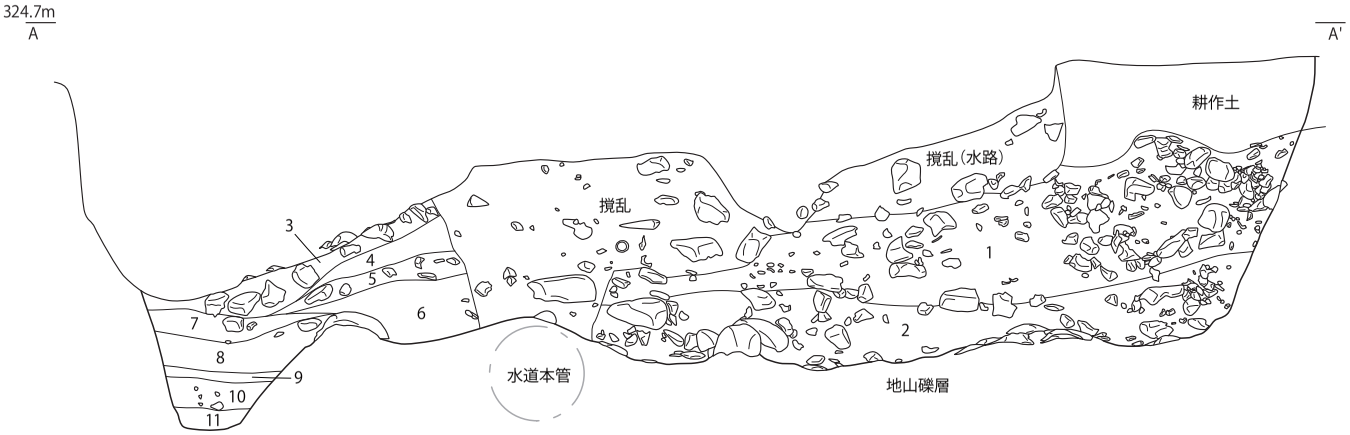
1　白色粗砂
2　褐色砂質土
3　灰色砂質土
4　黒色砂質土
5　暗灰色砂質土
6　灰色砂礫　5~10cm大の礫を含む
7　暗灰色砂礫　5~20cm大の礫を含む
8　暗褐色砂礫　5~10cm大の礫を含む
9　褐色砂質土　5~10cm大の礫を含む
10　暗褐色砂礫　5~20cm大の礫を含む
11　灰色粗砂　5cm大の礫を含む



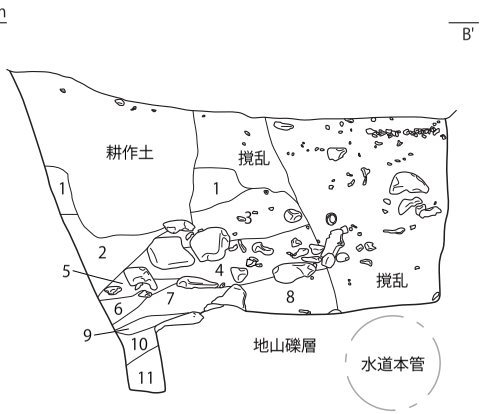
第9図　1区3トレンチ



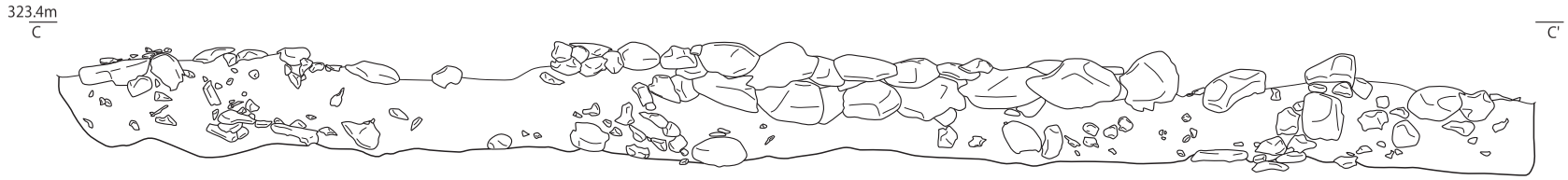
第10図　1区4トレンチ（1）

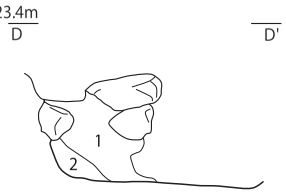


1　灰色砂礫　5~20cm大の礫を含む
2　暗褐色砂礫　5~10cm大の礫を含む
3　灰色砂質土　10~20cm大の礫を含む
4　灰色砂質土
5　灰色砂質土　5~10cm大の礫を含む
6　灰色砂質土
7　白色粗砂　5~10cm大の礫を含む
8　灰色砂質土
9　暗褐色砂質土
10　白色粗砂　5~10cm大の礫を含む
11　灰色砂質土



1　白色粗砂
2　暗灰色砂質土
3　褐色砂質土　10cm大の礫を含む
4　暗灰色砂質土　10~30cm大の礫を含む
5　白色粗砂　10cm大の礫を含む
6　黒色砂質土
7　暗灰色砂質土
8　褐色砂質土
9　白色粗砂　5cm大の礫を含む
10　暗褐色砂質土
11　灰色砂質土



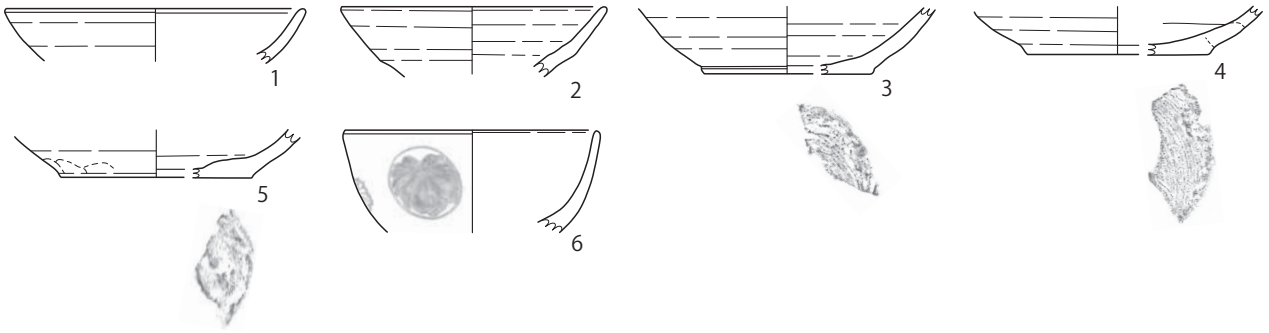


1　灰色砂質土
2　地山礫層

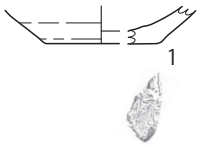
0　1:40　1m

第11図　1区4トレンチ（2）

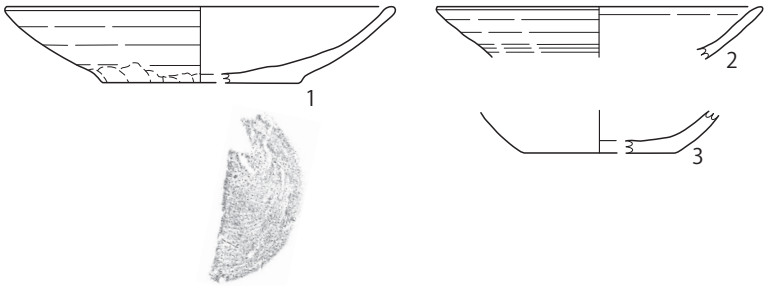
1 トレンチ



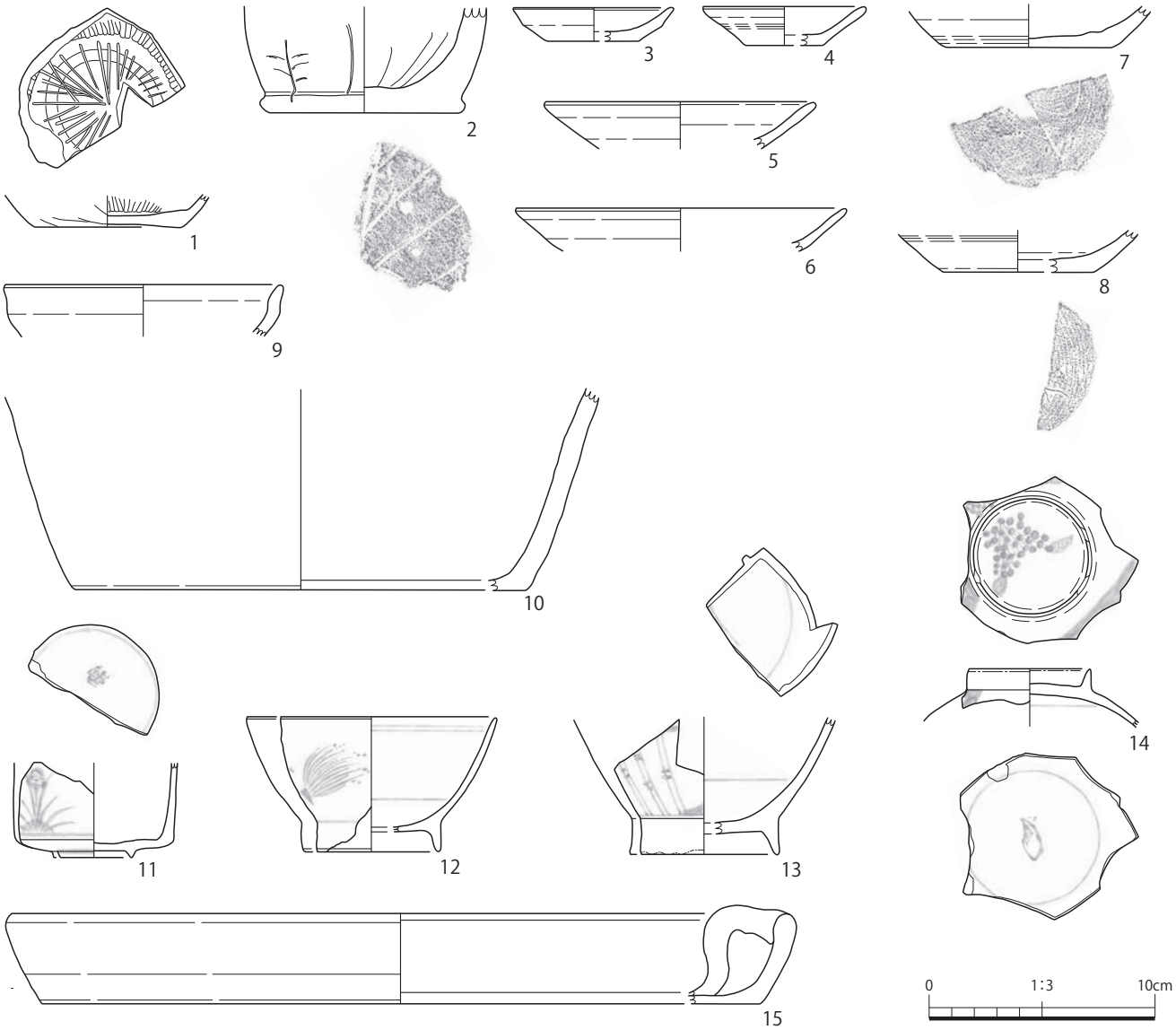
2 トレンチ



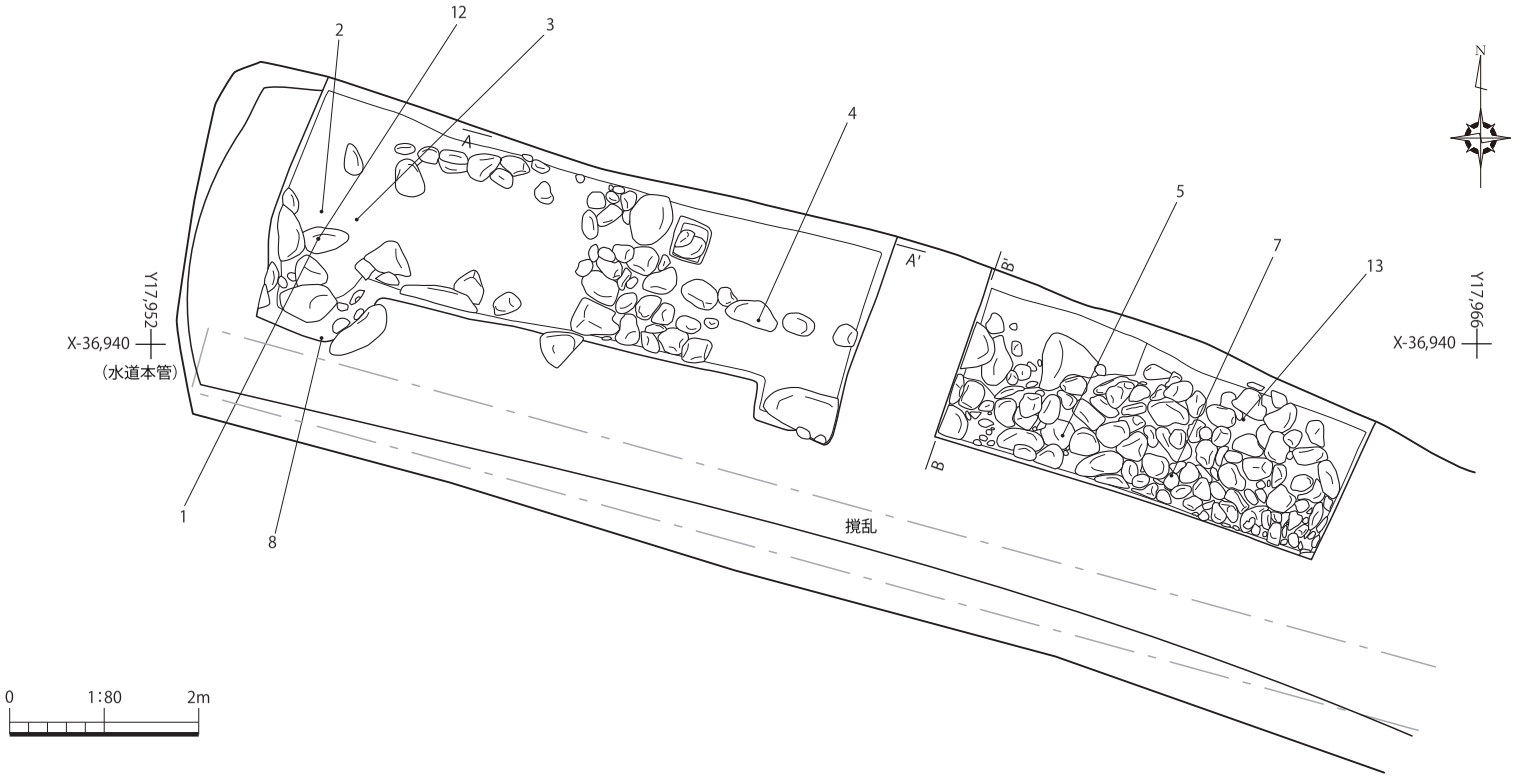
3 トレンチ

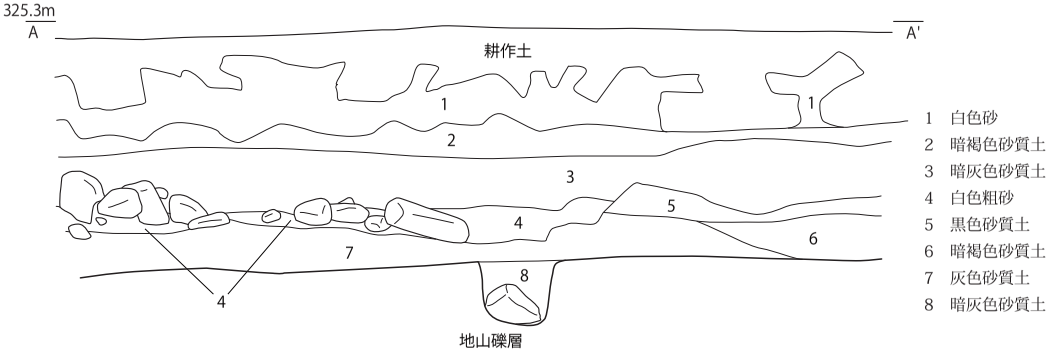


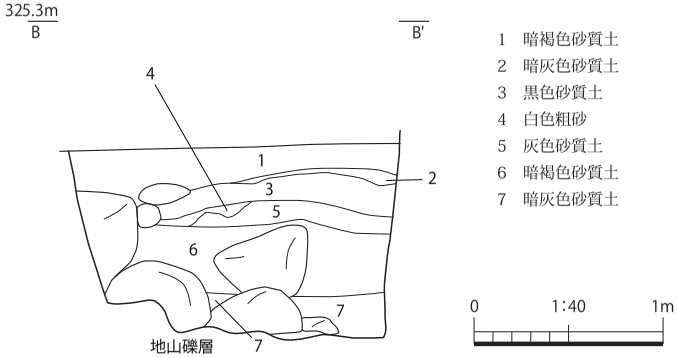
4 トレンチ



第 12 図　出土遺物　1 区 1 ～ 4 トレンチ


Y17,952
X-36,940
（水道本管）
Y17,966
X-36,940
A
A'
B
B'
1
2
3
4
5
7
8
12
13
攪乱
0
1:80
2m

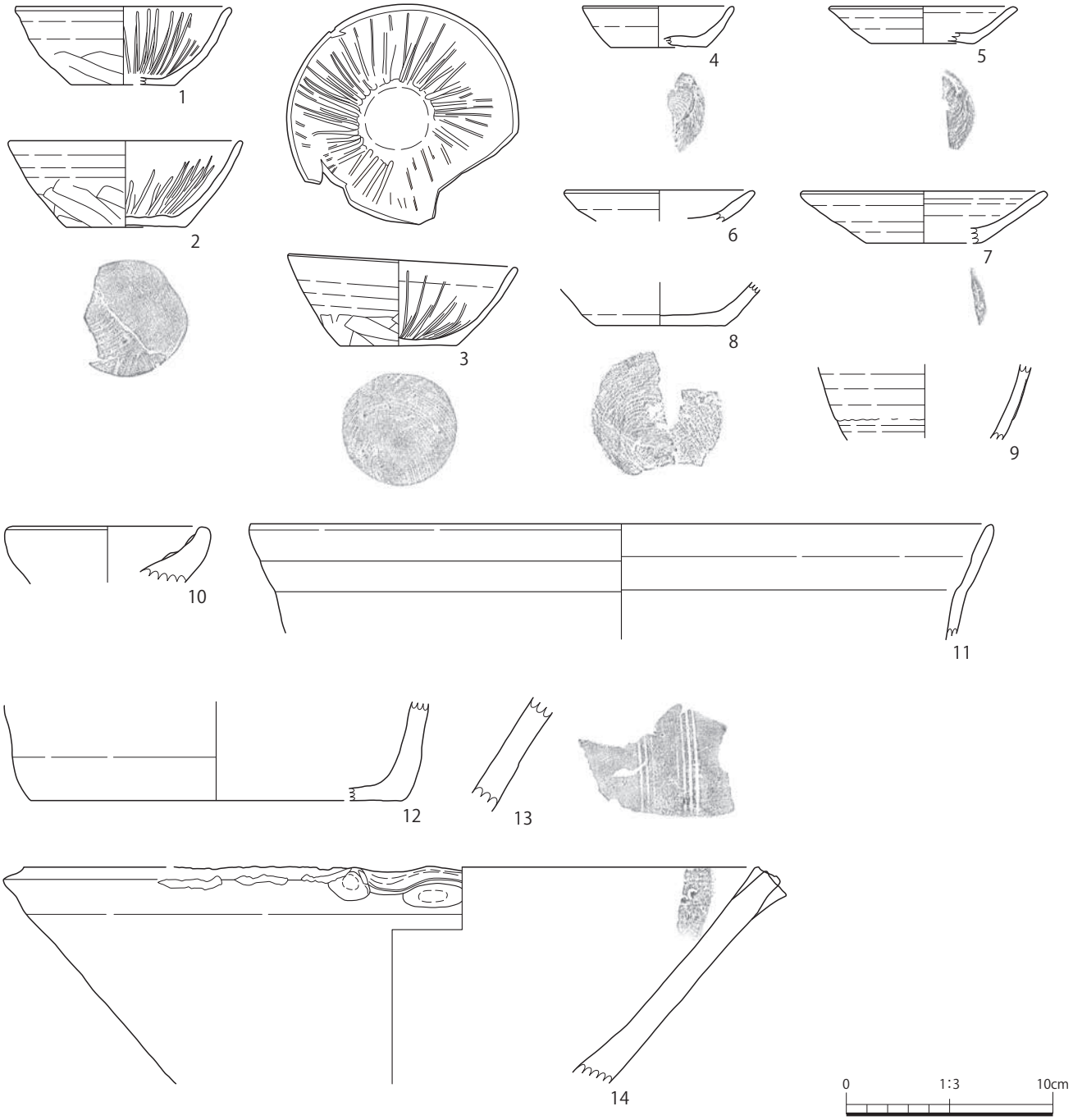

325.3m
A
A'
耕作土
1
2
3
4
5
6
7
8
地山礫層
1 白色砂
2 暗褐色砂質土
3 暗灰色砂質土
4 白色粗砂
5 黒色砂質土
6 暗褐色砂質土
7 灰色砂質土
8 暗灰色砂質土


325.3m
B
B'
1
2
3
4
5
6
7
地山礫層
0
1:40
1m
1 暗褐色砂質土
2 暗灰色砂質土
3 黒色砂質土
4 白色粗砂
5 灰色砂質土
6 暗褐色砂質土
7 暗灰色砂質土

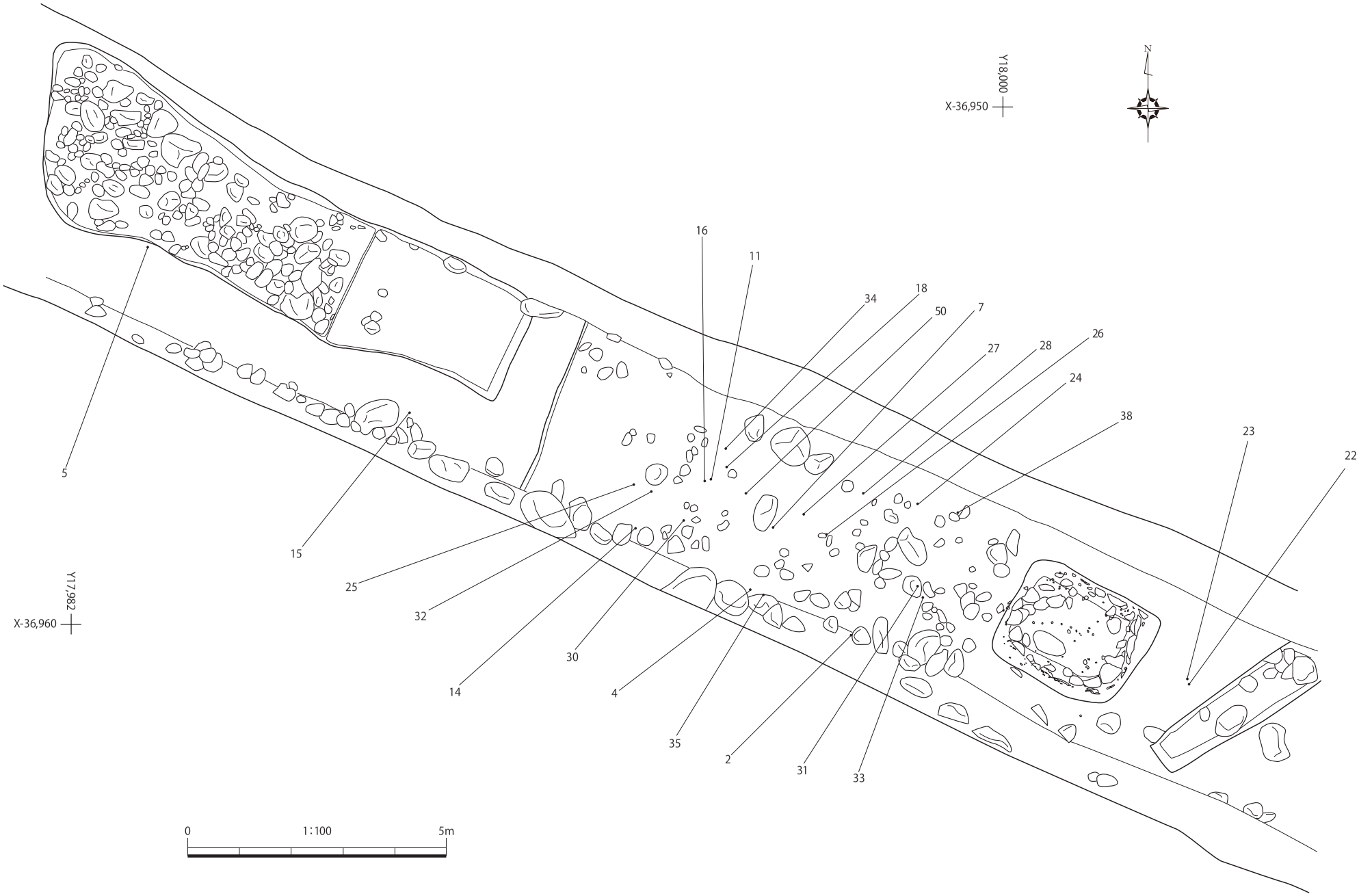
第 13 図　2区（1）

Y17,980
X-36,942
N
A
A'
6
撹乱
9
14
10
B
B'
11
Y17,966
X-36,950
325.6m
A
A'
325.6m
B
B'
0
1:80
2m

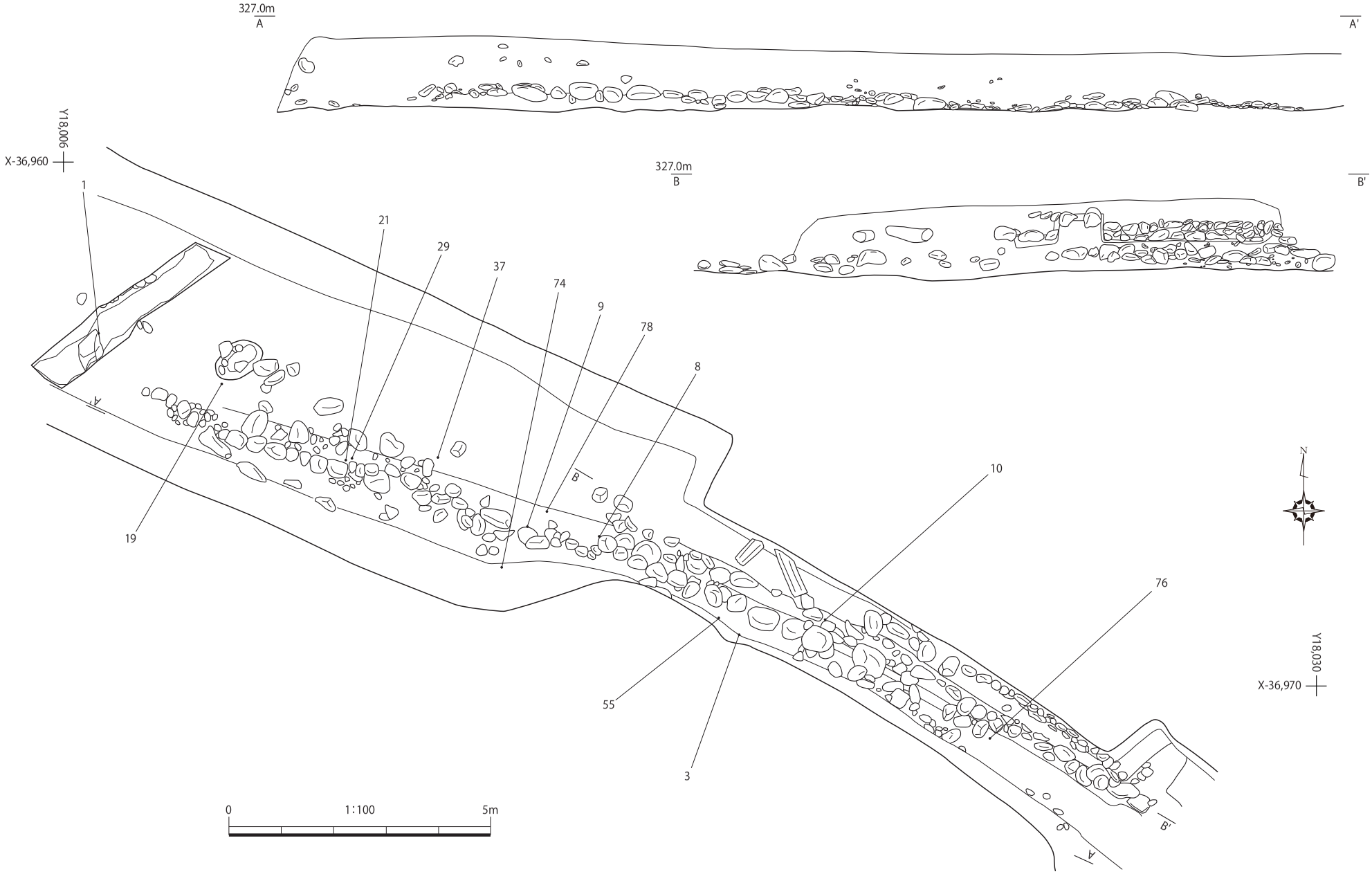
第 14 図　2区（2）



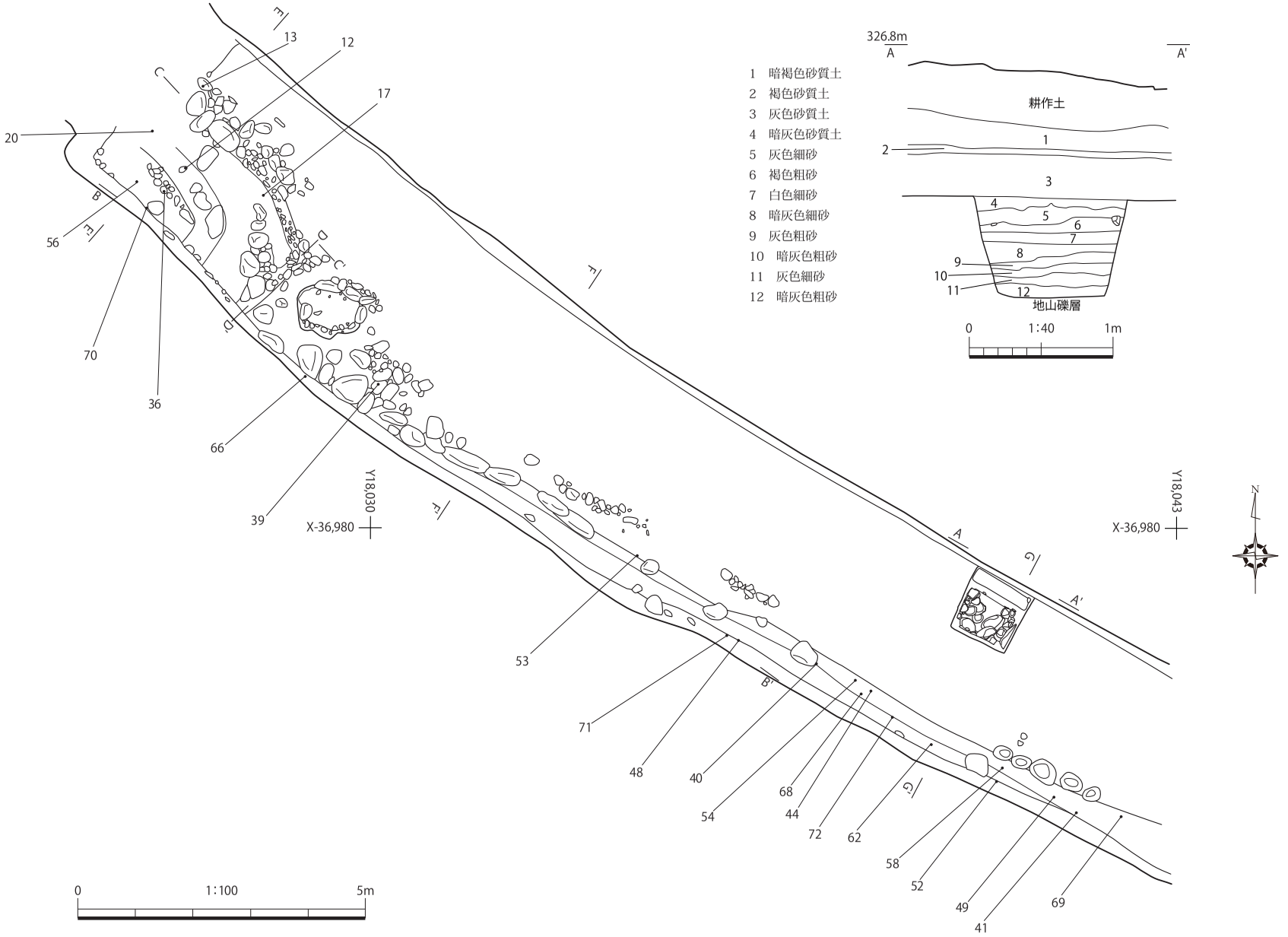
第 15 図　出土遺物　2 区


Y18,000
X-36,950
N
16
11
34
18
50
7
27
28
26
24
38
23
22
5
15
25
32
30
14
4
35
2
31
33
Y17,982
X-36,960
0
1:100
5m

第 16 図　3 区（1）

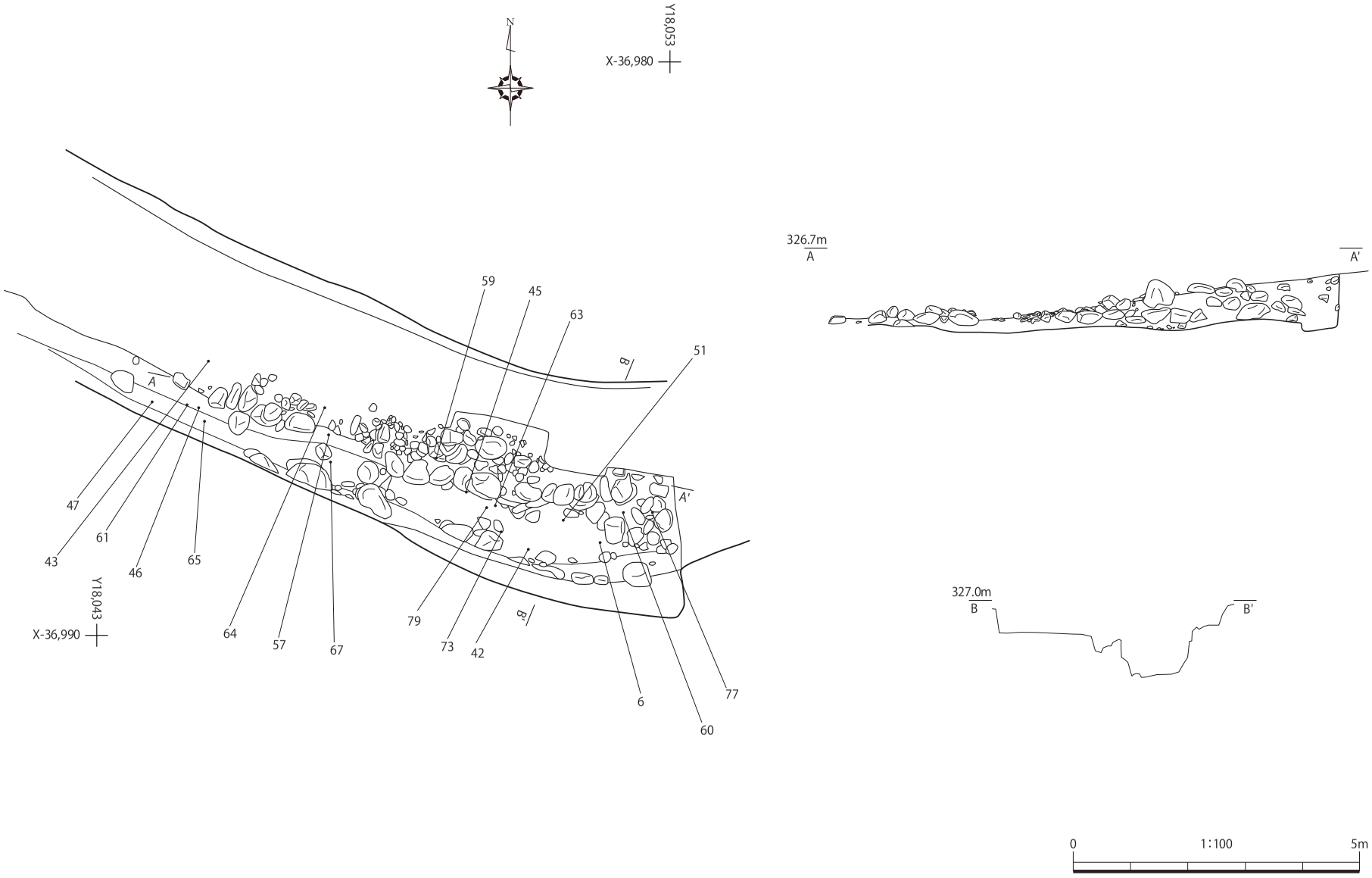

327.0m
A
A'
327.0m
B
B'
Y18,006
X-36,960
Y18,030
X-36,970
1
21
29
37
74
9
78
8
10
76
55
3
19
0
1:100
5m

第 17 図　3区（2）

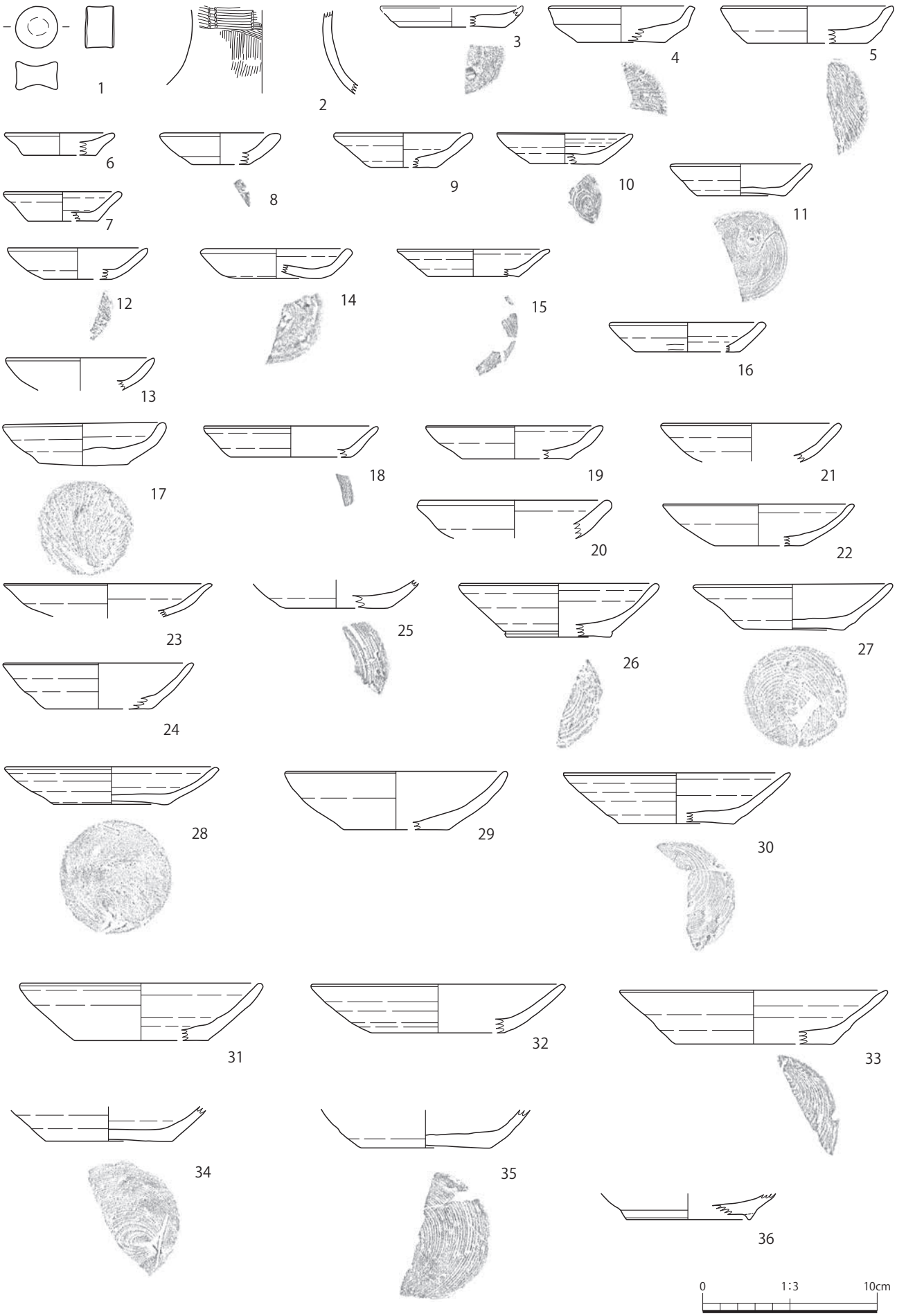

1 暗褐色砂質土
2 褐色砂質土
3 灰色砂質土
4 暗灰色砂質土
5 灰色細砂
6 褐色粗砂
7 白色細砂
8 暗灰色細砂
9 灰色粗砂
10 暗灰色粗砂
11 灰色細砂
12 暗灰色粗砂
326.8m
A
A'
耕作土
地山礫層
0 1:40 1m
Y18,030
X-36,980
Y18,043
X-36,980
N
0 1:100 5m
13
12
17
20
56
70
36
66
39
53
71
48
40
54
68
44
72
62
58
52
49
41
69

第 18 図　3区（3）

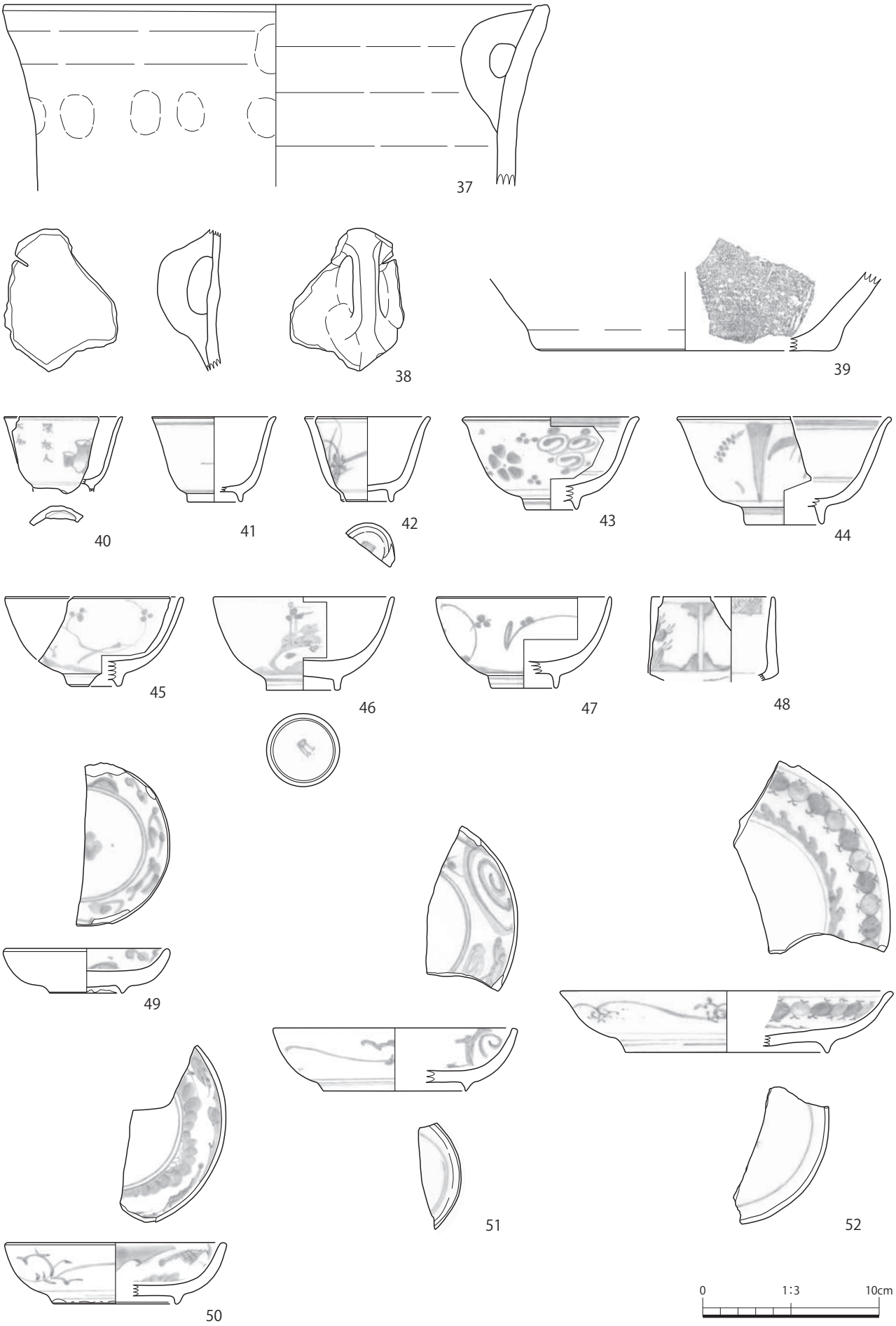
第19図　3区（4）


N
Y18,053
X-36,980
Y18,043
X-36,990
A
A'
B
B'
326.7m
327.0m
59
45
63
51
47
61
43
46
65
64
57
67
79
73
42
6
60
77
0
1:100
5m

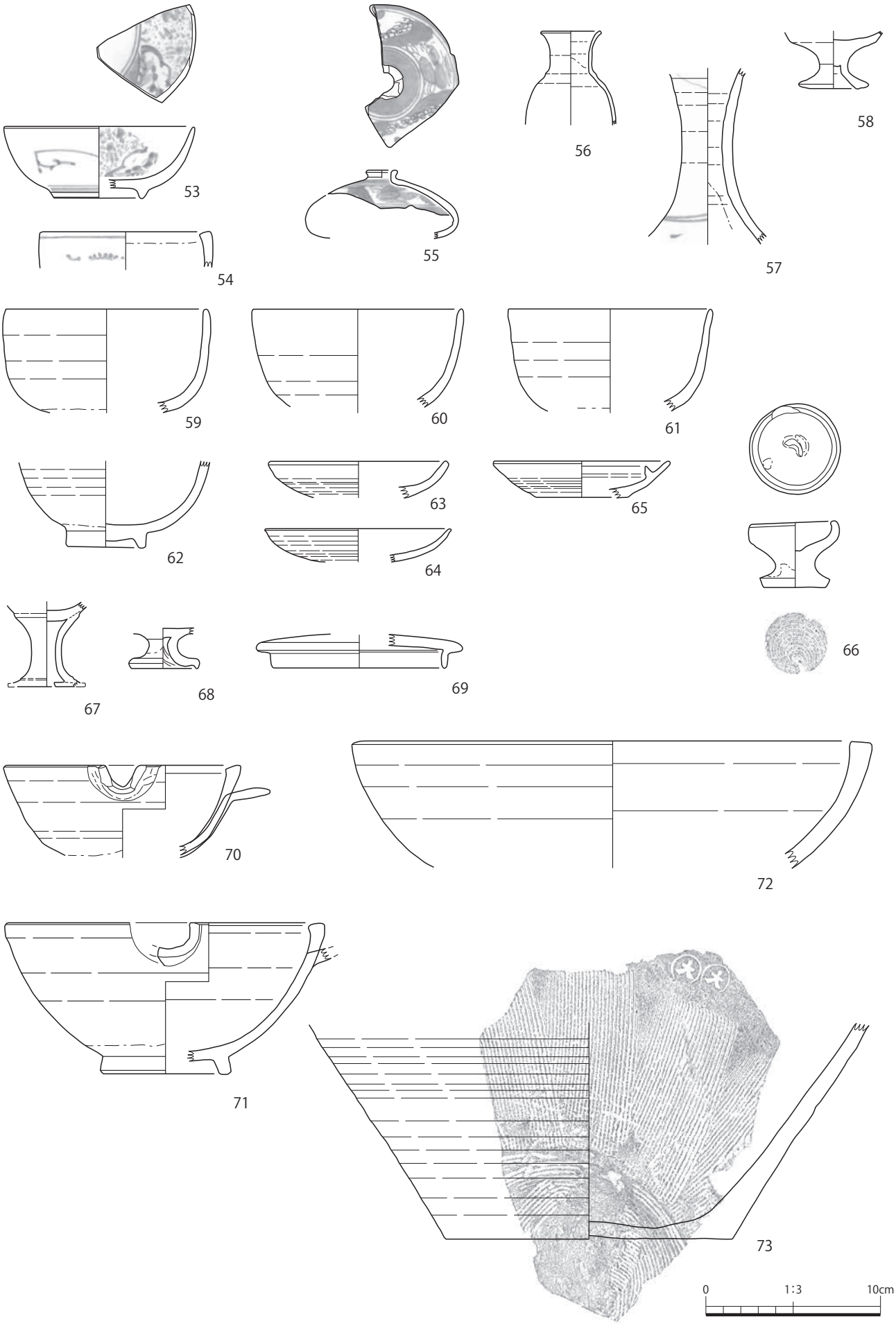
第 20 図　3区（5）



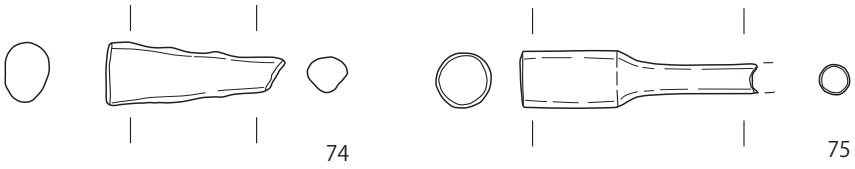
第 21 図　出土遺物　3 区（1）

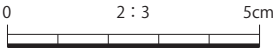


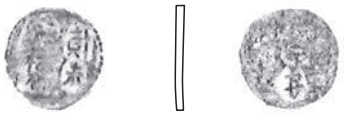
第 22 図　出土遺物　3 区（2）

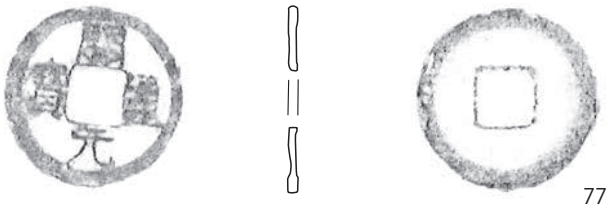


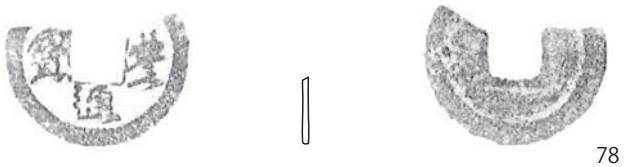
第 23 図　出土遺物　3 区（3）

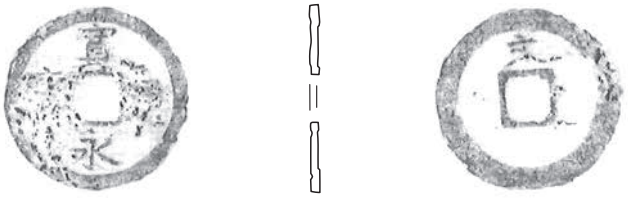


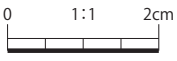




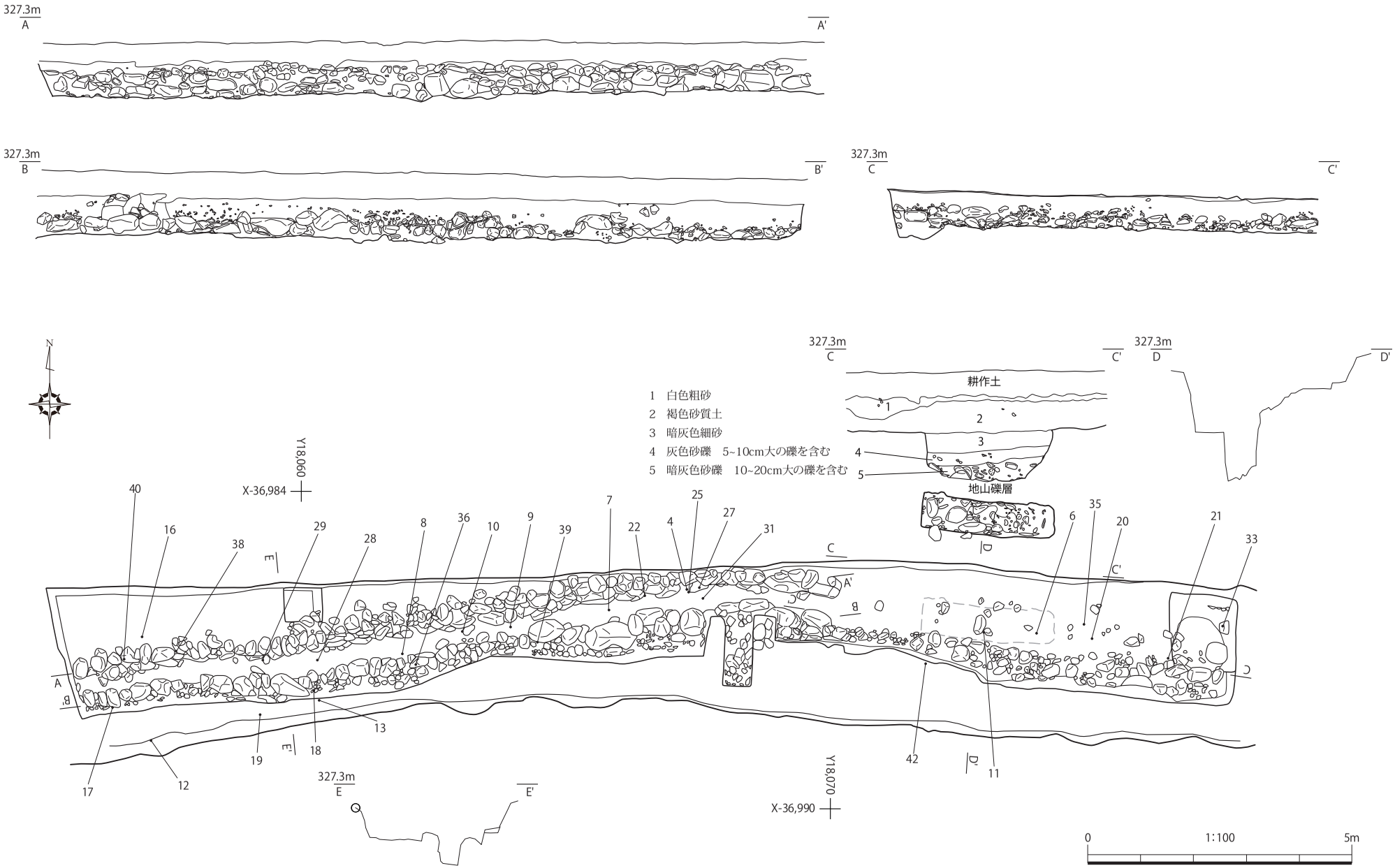




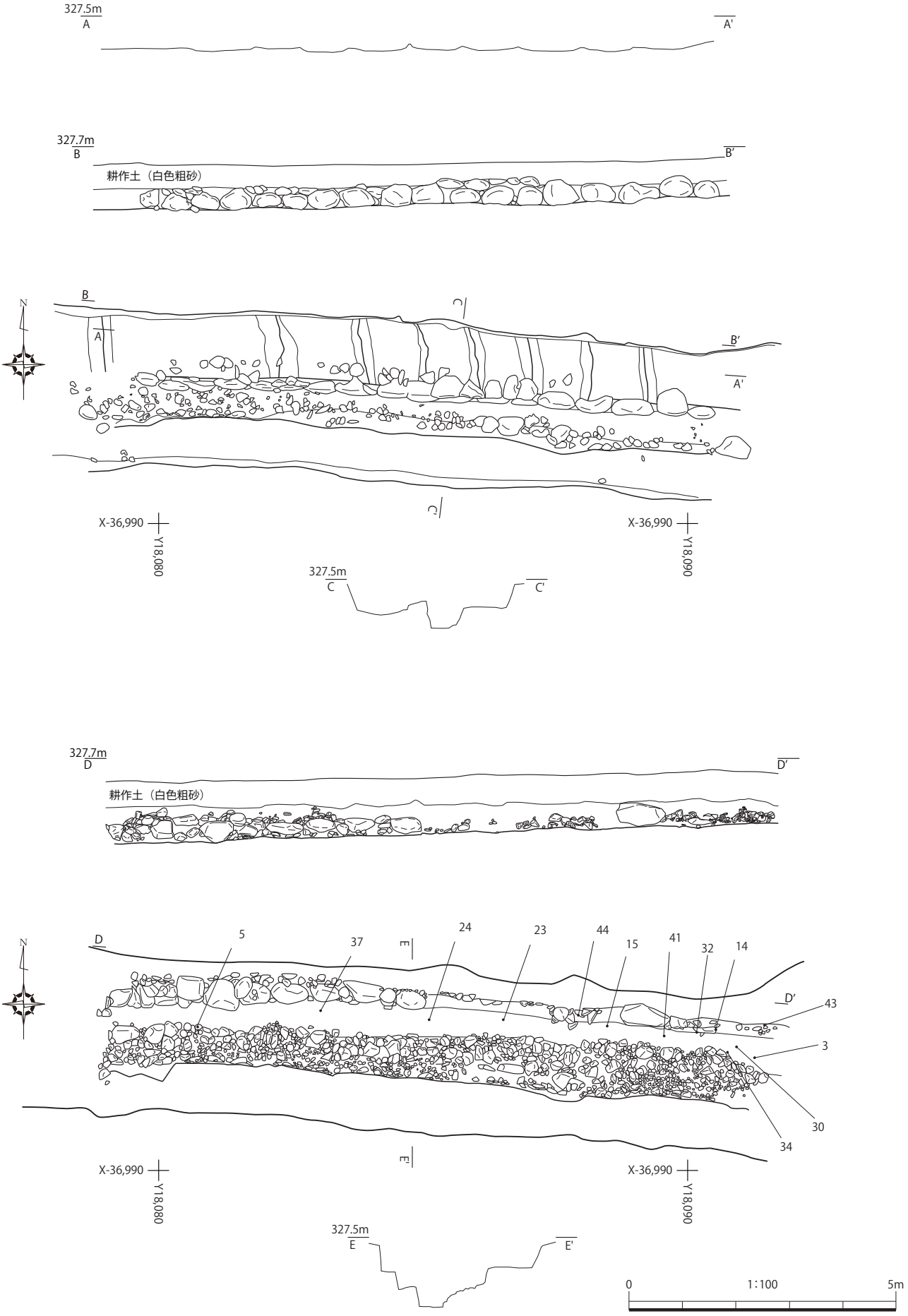




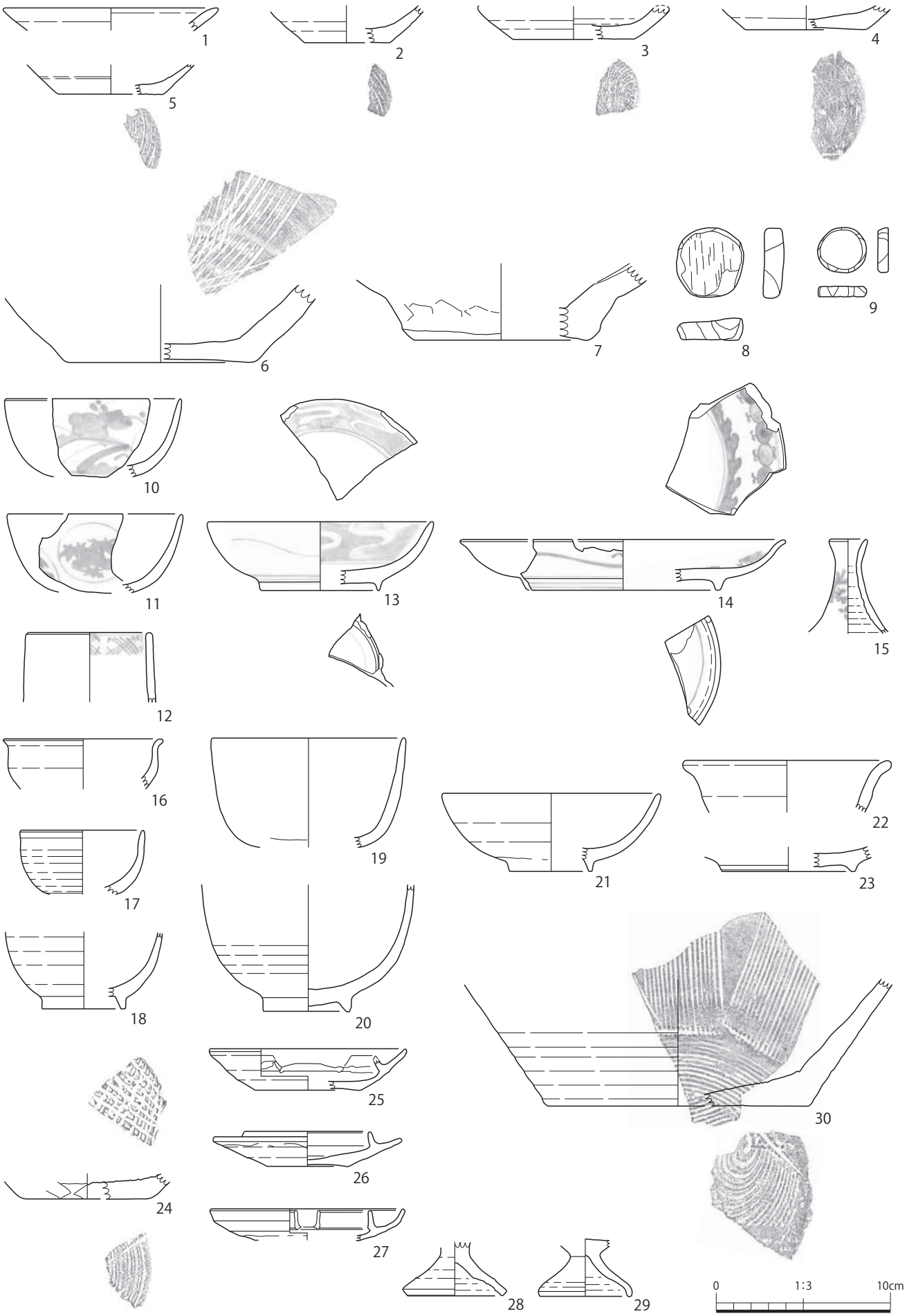
第 24 図　出土遺物　3区（4）


327.3m
A
A'
327.3m
B
B'
327.3m
C
C'
N
1 白色粗砂
2 褐色砂質土
3 暗灰色細砂
4 灰色砂礫 5~10cm大の礫を含む
5 暗灰色砂礫 10~20cm大の礫を含む
耕作土
地山礫層
327.3m
D
D'
Y18,060
X-36,984
Y18,070
X-36,990
0
1:100
5m

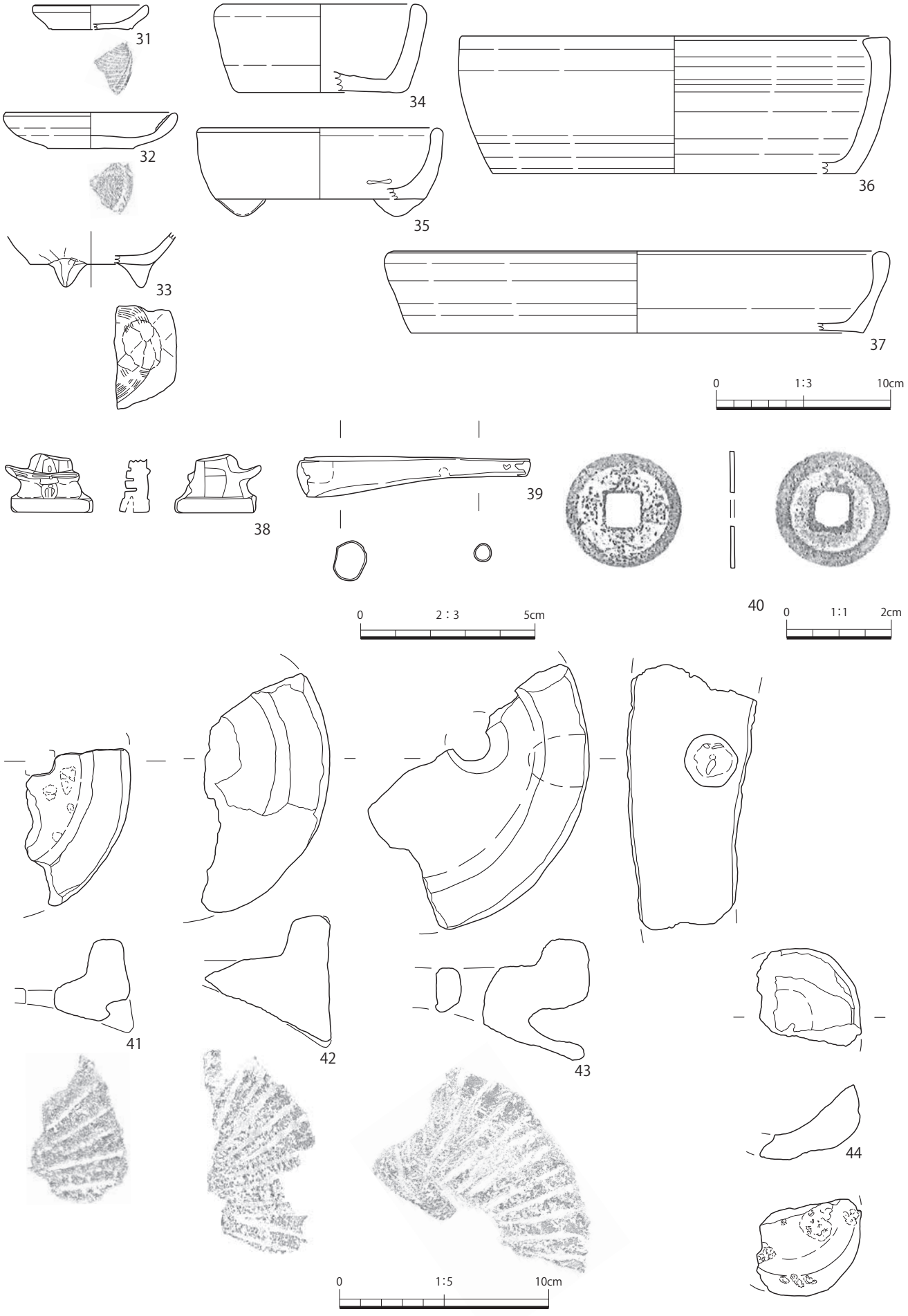
第25図　4区（1）


327.5m
A
A'
327.7m
B
B'
耕作土（白色粗砂）
N
B
A
C
B'
A'
C
X-36,990
Y18,080
X-36,990
Y18,090
327.5m
C
C'
327.7m
D
D'
耕作土（白色粗砂）
N
D
5
37
E
24
23
44
15
41
32
14
D'
43
3
30
34
E
X-36,990
Y18,080
X-36,990
Y18,090
327.5m
E
E'
0
1:100
5m

第 26 図　4区（2）



第 27 図　出土遺物　4 区（1）



第 28 図　出土遺物　4 区（2）

表１　遺物観測表

※（数値）は復元値、＜数値は＞残存値

遺構名	図番号	写真図版番号	種別	器種	口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	部位	色調	焼成	胎土	備考
1区1トレ	12-1-1	14	土師質土器	かわらけ	(12.0)	—	＜2.1＞	口縁1/4	にぶい黄橙10YR7/3	良好	細砂粒含む　赤色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
1区1トレ	12-1-2	14	土師質土器	かわらけ	(10.4)	—	＜2.7＞	口縁1/4	にぶい橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む　赤色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
1区1トレ	12-1-3	14	土師質土器	かわらけ	—	(6.6)	＜2.6＞	体部1/4～底部1/4	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密　赤色粒・黒色粒・長石・石英	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
1区1トレ	12-1-4	14	土師質土器	かわらけ	—	(7.2)	＜1.9＞	体部1/4～底部1/4	にぶい褐7.5YR5/3	良好	細砂粒含む　赤色粒・長石・石英	外面：ﾛｸﾛ　内面：ﾀｰﾙ状の煤付着　底面：糸切り痕
1区1トレ	12-1-5	14	土師質土器	かわらけ	—	(7.6)	＜1.9＞	底部1/4	橙5YR7/6	良好	密　赤色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：糸切り
1区1トレ	12-1-6	14	磁器	碗	(10.2)	—	＜4.1＞	口縁1/3	灰白5GY8/1	良好	密	染付　桐の葉　コンニャク判　18世紀代
1区2トレ	12-2-1	14	土師質土器	かわらけ	—	(4.4)	＜1.5＞	底部1/6	にぶい橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む　長石	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
1区3トレ	12-3-1	14	土師質土器	かわらけ	(15.4)	(7.8)	3.0	口縁1/4～底面1/2	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密　赤色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：糸切り痕
1区3トレ	12-3-2	14	土師質土器	かわらけ	(13.0)	—	＜2.0＞	口縁1/6	にぶい橙7.5YR7/3	やや不良	密　赤色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　口縁付近ｽｽ付着
1区3トレ	12-3-3	14	土師質土器	かわらけ	—	(6.0)	＜1.7＞	体部1/3～底部	橙5YR7/6	やや不良	密　赤色粒・長石・石英	全体に摩耗している　糸切り痕確認できず
1区4トレ	12-4-1	14	土師器	坏	—	(6.4)	＜1.4＞	体部～底部	橙5YR6/6	良好	密	外面：ﾍﾗｹｽﾞﾘ　ﾅﾃﾞ　内面：暗文　底面：ﾍﾗｹｽﾞﾘ 8世紀後半
1区4トレ	12-4-2	14	土師器	甕	—	(8.4)	＜4.7＞	体部1/3～底部	にぶい黄2.5Y6/3	やや不良	密　長石・石英・金色雲母	外面：一部に木葉痕　内面：ﾍﾗ　底面：木葉痕 平安末11～12世紀か？
1区4トレ	12-4-3	14	土師質土器	かわらけ	(7.1)	(4.0)	1.5	口縁小～底部1/8	にぶい橙5YR6/4	良好	密	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　内面：黒色残る（ｽｽか？）　底面： 糸切り痕はかすかに残る　若干ﾐｶﾞｷか？
1区4トレ	12-4-4	14	土師質土器	かわらけ	(7.2)	＜3.4＞	1.7	口縁破1/4～底部1/8	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密　赤色粒・長石・石英	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：残存少ない　手切りの残存は不明瞭
1区4トレ	12-4-5	14	土師質土器	かわらけ	(12.0)	—	＜2.1＞	口縁1/4	浅黄橙10YR8/3	良好	密　黒色粒・長石・石英	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
1区4トレ	12-4-6	14	土師質土器	かわらけ	(14.6)	—	＜1.8＞	口縁1/8	にぶい橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む　赤色粒・長石・石英	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
1区4トレ	12-4-7	14	土師質土器	かわらけ	—	(7.3)	＜1.9＞	底部1/2	にぶい橙7.5YR7/3	良好	細砂粒含む　赤色粒・長石・石英	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：糸切り痕
1区4トレ	12-4-8	14	土師質土器	かわらけ	—	(6.6)	＜1.9＞	底部1/4	にぶい橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む　赤色粒・長石・石英	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：糸切り痕
1区4トレ	12-4-9	14	陶器	天目茶碗	(12.4)	—	＜2.3＞	口縁1/10	褐7.5YR4/3	良好	密　（色調は灰色N8/）	外・内面：鉄釉　15世紀代
1区4トレ	12-4-10	14	土器	内耳土器	—	(20.0)	＜9.0＞	体部小～底部小	外面：黒10Y2/1 内面：にぶい黄橙10YR6/3	良好	細砂粒含む　長石・石英	外面：ﾛｸﾛ　ｽｽ付着　底面：少し剝がれか？
1区4トレ	12-4-11	14	磁器	碗	—	(7.0)	＜4.2＞	体部～底部　1/3	灰白N8/	良好	密	筒形　外面：かきつばた　見込み：五弁花　コンニャク判 肥前　染付　18世紀末～19世紀
1区4トレ	12-4-12	14	磁器	碗	(11.0)	＜6.0＞	6.0	口縁～底部　1/4	明緑灰10GY8/1～灰白N8/	良好	密	肥前染付　18世紀末～19世紀　広東碗
1区4トレ	12-4-13	14	磁器	碗	—	(6.6)	＜6.0＞	体部～底部　1/4	灰白N8/	良好	密	肥前染付　18世紀末～19世紀　広東碗
1区4トレ	12-4-14	14	磁器	蓋	—	5.4	＜2.5＞	つまみ部～体部1/3	灰白N8/	良好	密	肥前？19世紀

※（数値）は復元値、＜数値は＞残存値

遺構名	図番号	写真図版番号	種別	器種	口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	部位	色調	焼成	胎土	備考
1区4トレ	12-4-15	14	土器	内耳土器	(34.6)	(32.0)	＜4.0＞	口縁～底部 1/10	外面:にぶい黄褐10YR5/4 内面:にぶい橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外面:ﾛｸﾛ痕 ｽｽ付着 内面:回転ﾅﾃﾞ
2区	15-1	14	土師器	坏	(10.4)	(5.0)	3.8	口縁～底部	明赤褐5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ﾍﾗｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ 内面:暗文 底面:ﾍﾗｹｽﾞﾘ 9世紀代
2区	15-2	14	土師器	坏	(11.2)	(5.8)	4.2	口縁1/4～底部1/2	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ﾛｸﾛ ﾍﾗｹｽﾞﾘ 内面:暗文 見込み:ﾅﾃﾞ 底面:ﾍﾗｹｽﾞﾘ 一部糸切り痕残る 9世紀代
2区	15-3	14	土師器	坏	11.0	5.6	4.2	口縁3/4～底部	外面:橙5YR6/6 内面:にぶい黄橙10YR7/4	良好	密 赤色粒	外面:ﾛｸﾛ 下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ 内面:放射状暗文 底面:回転糸切り痕の上ﾍﾗｹｽﾞﾘ 9世紀代
2区	15-4	14	土師質土器	かわらけ	(7.0)	(4.6)	2.0	口縁1/4～底部1/4	にぶい橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 底面:糸切り痕
2区	15-5	14	土師質土器	かわらけ	(9.0)	(5.0)	2.8	口縁1/8～底部1/4	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 底面:回転糸切り痕
2区	15-6	14	土師質土器	かわらけ	(9.0)	—	＜1.5＞	口縁1/5～体部	にぶい黄橙10YR7/4	良好	密 白色粒・黒色粒・長石・石英	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
2区	15-7	14	土師質土器	かわらけ	(11.8)	(5.6)	(2.5)	口縁1/8～底部1/5	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 底面:回転糸切り痕
2区	15-8	14	土師質土器	かわらけ	—	6.3	(1.7)	体部1/8～底部1/2	橙5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ﾅﾃﾞ 底面:糸切り痕
2区	15-9	14	陶器	天目茶碗	—	—	(3.5)	破片	灰白5Y8/2	良好	密 金色雲母	外・内面:ﾛｸﾛ 鉄釉
2区	15-10	14	土師質土器	皿	(9.2)	—	＜3.7＞	口縁小	浅黄橙10YR8/3	良好	密 長石	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 溶融物付着
2区	15-11	14	土器	内耳土器	(36.0)	—	＜5.6＞	口縁小	にぶい橙5YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・黒色雲母	外・内面:ﾛｸﾛ
2区	15-12	14	土器	内耳土器	—	(18.0)	＜4.8＞	底部小	橙7.5YR7/6	良好	密 砂粒多い	外・内面:ﾛｸﾛ
2区	15-13	14	土器	擂鉢	＜5.5＞	—	—	体部破片	にぶい橙7.5YR6/4	良好	密	外・内面:ﾛｸﾛ
2区	15-14	14	陶器	片口鉢	(35.6)	—	(10.4)	口縁1/8～体部1/8	にぶい赤橙10R6/4	良好	密 長石	外・内面:ﾛｸﾛ 内面摩滅しスベスベ部分多い 使用痕か
3区	21-1	14	土製品(縄文)	耳栓	2.4	—	1.6		明黄褐10YR7/6	良好	密	
3区	21-2	14	弥生土器	壺	—	—	＜4.8＞	頸部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む 白色粒	外面:ﾊｹﾒ 頸部 簾状文 外・内面 赤彩か？
3区	21-3	14	土師質土器	かわらけ	(8.1)	(6.0)	(1.3)	体部～底部	橙7.5YR6/6	良好	細砂粒含む 白色粒	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 底面糸切り上やや調整か？
3区	21-4	14	土師質土器	かわらけ	(7.9)	(5.0)	2.1	口縁1/4～底部1/4	にぶい褐7.5YR5/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 底面:静止糸切り痕
3区	21-5	14	土師質土器	かわらけ	(9.6)	(7.0)	2.2	口縁～底部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む 白色粒	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 底面:静止糸切り痕
3区	21-6	14	土師質土器	かわらけ	(6.2)	(4.2)	1.3	口縁～底部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 白色粒	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 全体に摩滅している
3区	21-7	14	土師質土器	かわらけ	(6.6)	(4.0)	＜1.7＞	口縁小～底部小	橙7.5YR7/6	良好	密	外・内面:ﾅﾃﾞ
3区	21-8	14	土師質土器	かわらけ	(6.4)	(3.4)	1.8	口縁～底部	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 内面:ｽｽ付着 底面:回転糸切り痕？
3区	21-9	14	土師質土器	かわらけ	(7.8)	(3.8)	＜2.0＞	口縁1/5～底部1/4	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ﾅﾃﾞ

※（数値）は復元値、＜数値は＞残存値

遺構名	図番号	写真図版番号	種別	器種	口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	部位	色調	焼成	胎土	備考
3区	21-10	14	土師質土器	かわらけ	(7.8)	(4.0)	(1.8)	口縁～底部	橙5YR6/6	良好	密　赤色粒・長石・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り痕　口縁少々ｽｽ付着
3区	21-11	14	土師質土器	かわらけ	(8.0)	(5.0)	1.8	口縁～底部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む　赤色粒・白色粒	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り痕
3区	21-12	14	土師質土器	かわらけ	(8.0)	(4.0)	1.8	口縁～底部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む　赤色粒・白色粒・黒色粒	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：静止糸切り痕　口縁ｽｽ付着
3区	21-13	14	土師質土器	かわらけ	(8.4)	—	＜1.9＞	口縁～体部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む　赤色粒・白色粒	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　口縁ｽｽ付着
3区	21-14	14	土師質土器	かわらけ	(8.2)	(4.4)	(1.7)	口縁～底部1/4	にぶい橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む　赤色粒・白色粒	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り後ﾅﾃﾞ？　口縁ｽｽ一部付着
3区	21-15	14	土師質土器	かわらけ	(8.6)	(5.2)	1.6	口縁～底部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	密　赤色粒・白色粒	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り痕
3区	21-16	14	土師質土器	かわらけ	(8.6)	(6.0)	＜1.7＞	口縁小～底部小	浅黄橙10YR8/4	良好	密　砂粒	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
3区	21-17	15	土師質土器	かわらけ	9.1	5.2	2.4	口縁3/4～底部完形	にぶい橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む　長石・石英・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り痕　口縁部全周的にｽｽ付着
3区	21-18	15	土師質土器	かわらけ	(10.0)	(7.0)	1.8	口縁～底部	にぶい橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む　赤色粒・白色粒	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り痕
3区	21-19	15	土師質土器	かわらけ	(10.0)	(6.0)	(2.0)	口縁1/6～底部1/4	橙7.5YR7/6	良好	密　赤色粒・長石・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
3区	21-20	15	土師質土器	かわらけ	(10.8)	—	＜2.2＞	口縁1/8	橙5YR7/6	良好	密	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　口縁焼けて赤化している
3区	21-21	15	土師質土器	かわらけ	(10.0)	—	＜2.2＞	口縁1/5～体部小	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密　赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
3区	21-22	15	土師質土器	かわらけ	(10.8)	(5.0)	＜2.4＞	口縁1/5～底部1/5	橙7.5YR7/6	良好	密　赤色粒・長石	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
3区	21-23	15	土師質土器	かわらけ	(11.8)	—	＜1.9＞	口縁～体部1/4	橙7.5YR7/6	良好	細砂粒含む　赤色粒・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　籾状痕が外面に一つあり　内面には大きい籾？痕
3区	21-24	15	土師質土器	かわらけ	(10.6)	(6.0)	2.7	口縁1/5～底部小	淡橙5YR8/3	良好	密　赤色粒・白色粒・長石・石英・黒色雲母・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　全体に摩滅　底面の糸切りは確認できず
3区	21-25	15	土師質土器	かわらけ	—	(6.0)	＜1.6＞	体部～底部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む　赤色粒・白色粒	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り痕
3区	21-26	15	土師質土器	かわらけ	(11.2)	(6.0)	(3.1)	口縁1/4～底部1/2	橙5YR7/6	良好	細砂粒含む　赤色粒・白色粒	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り痕　口縁ｽｽ付着
3区	21-27	15	土師質土器	かわらけ	11.2	6.0	2.6	口縁3/4～底部完形	橙7.5YR7/6	良好	細砂粒含む　赤色粒・長石	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り痕　口縁周囲にｽｽ付着～灯明皿として利用
3区	21-28	15	土師質土器	かわらけ	(12.0)	6.6	(2.2)	口縁1/4～底部完形	橙7.5YR6/6	良好	細砂粒含む　赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り痕
3区	21-29	15	土師質土器	かわらけ	(12.5)	(6.0)	＜3.4＞	口縁小～底部小	にぶい橙7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む　赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
3区	21-30	15	土師質土器	かわらけ	(13.0)	(6.6)	2.9	口縁～底部	にぶい橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む　赤色粒・白色粒	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り痕
3区	21-31	15	土師質土器	かわらけ	(13.8)	(7.6)	＜3.3＞	口縁～底部小	明黄褐10YR7/6	良好	密　赤色粒・長石	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　残存では糸切り痕みられず
3区	21-32	15	土師質土器	かわらけ	(14.4)	(7.6)	＜2.8＞	口縁1/4～底部小	浅黄橙7.5YR8/6	良好	密　赤色粒・長石・石英	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
3区	21-33	15	土師質土器	かわらけ	(15.2)	(9.0)	＜3.1＞	口縁小～底部小	橙7.5YR7/6	良好	密　赤色粒・長石	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り痕

※（数値）は復元値、＜数値は＞残存値

遺構名	図番号	写真図版番号	種別	器種	口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	部位	色調	焼成	胎土	備考
3区	21-34	15	土師質土器	かわらけ	—	(7.2)	〈2.0〉	体部～底部	にぶい橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む　赤色粒・白色粒・長石	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面：回転糸切り痕
3区	21-35	15	土師質土器	かわらけ	—	(7.4)	2.2	体部小～底部1/2	橙7.5YR6/6	良好	細砂粒含む　赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　剝離あり　底面：回転糸切り痕
3区	21-36	15	陶器	皿	—	(7.0)	＜1.5＞	体部小～底部1/6	胎土：灰白10YR8/2 釉調：オリーブ黄5Y7/3	良好	密	大窯期　灰釉丸皿　16世紀代
3区	22-37	15	土器	内耳土器	(30.8)	—	＜10.3＞	口縁～体部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む　白色粒	外・内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 指頭痕　外・内面　灰及び煤付着
3区	22-38	15	土器	内耳土器	—	—	＜8.1＞	把手部	橙7.5YR6/6	良好	密	外・内面：ﾅﾃﾞ
3区	22-39	15	土器	擂鉢	—	(17.0)	＜4.5＞	底部小	明赤褐5YR5/6	良好	密	摩滅激しい
3区	22-40	15	磁器	小碗	(6.6)	—	＜4.3＞	口縁～体部1/4	灰白2.5Y8/1	良好	密	染付　瀬戸・美濃
3区	22-41	15	磁器	小碗	(7.0)	(3.0)	4.9	口縁～底部1/4	灰白2.5Y8/1	良好	密	外面：染付　透明釉　瀬戸・美濃？
3区	22-42	15	磁器	小碗	(7.0)	(2.8)	(4.8)	口縁1/2～底部1/2	灰白2.5Y8/1	良好	密	染付　草花文　瀬戸・美濃
3区	22-43	15	磁器	碗	(10.0)	(3.0)	5.3	口縁1/4～底部1/4	灰白2.5Y8/1	良好	密	外・内面：透明釉　染付　端反り碗　肥前
3区	22-44	15	磁器	碗	(12.2)	(4.4)	6.1	口縁1/6～底部1/12	灰白2.5Y8/1	良好	密	外面：透明釉　染付　内面：透明釉　圏線　端反り碗　瀬戸・美濃
3区	22-45	15	磁器	碗	(10.0)	(5.0)	＜5.1＞	口縁1/4～底部	灰白5Y8/1	良好	密	染付　雪輪梅樹文　くらわんか碗　肥前　18世紀後半
3区	22-46	15	磁器	碗	(10.2)	4.2	5.3	口縁1/48～底部100%	灰白5Y8/1	良好	密	外面：染付　雪輪梅樹文　底面：染付　文字？　くらわんか碗　肥前　18世紀後半
3区	22-47	15	磁器	碗	(10.0)	(3.8)	5.3	口縁1/3～底部1/4	灰白10Y8/1	良好	密	外面：染付　雪輪梅樹文　くらわんか碗　肥前　18世紀後半
3区	22-48	15	磁器	碗	(6.9)	—	＜4.8＞	口縁小～体部小	灰白5Y8/1	良好	密	染付　筒形碗　肥前　18世紀後半～19世紀
3区	22-49	15	磁器	小皿	(9.2)	(4.2)	(2.6)	口縁1/2～底部1/2	灰白5Y8/1	良好	密	透明釉　畳付無釉　染付　雪輪梅樹文　見込み五弁花コンニャク判　肥前
3区	22-50	15	磁器	皿	(12.4)	(7.0)	(3.5)	口縁1/4～底部1/4	灰白2.5Y8/1	良好	密	透明釉　染付　外面唐草文　肥前　18世紀後半
3区	22-51	15	磁器	皿	(13.8)	(8.0)	3.6	口縁1/4～底部1/4	灰白N8/	良好	密	染付　肥前　18～19世紀
3区	22-52	15	磁器	皿	(18.8)	(11.4)	3.5	口縁1/4～底部1/4	灰白5Y8/1	良好	密	染付　肥前　18～19世紀
3区	23-53	15	磁器	鉢	(10.8)	(5.2)	(4.1)	口縁1/4～底部1/4	灰白2.5Y8/1	良好	密	口錆　外面唐草　肥前　18～19世紀
3区	23-54	15	磁器	香炉	(9.8)	—	2.1	口縁1/4～体部小	灰白N8/	良好	密	外面：染付　施釉　たこ唐草文　内面：口縁少々施釉　無釉　肥前
3区	23-55	15	磁器	油壷	(1.6)	—	＜3.9＞	口縁～体部1/2	灰白N8/	良好	密	外面：透明釉　内面：無釉　染付　肥前？
3区	23-56	15	磁器	瓶	(3.4)	—	＜5.4＞	口縁～体部	灰白5Y8/1	良好	密	ﾛｸﾛ　透明釉　瀬戸・美濃
3区	23-57	15	磁器	瓶	—	—	＜10.1＞	頸部	胎土：灰白10YR7/1　釉調：灰白10YR8/1・にぶい橙5YR6/4	良好	密	ﾛｸﾛ　染付

※（数値）は復元値、＜数値は＞残存値

遺構名	図番号	写真図版番号	種別	器種	口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	部位	色調	焼成	胎土	備考
3区	23-58	15	磁器	仏飯器	—	(4.0)	＜3.3＞	体部～底部1/2	灰白N8/	良好	密	ﾛｸﾛ　瀬戸・美濃？
3区	23-59	15	陶器	碗	(11.6)	—	＜6.0＞	口縁小～体部小	胎土:灰白2.5Y8/1 釉調:黄褐2.5Y5/4	良好	密	ﾛｸﾛ　灰釉
3区	23-60	15	陶器	碗	(12.0)	—	〈5.6〉	口縁1/4～体部小	胎土:灰白2.5Y7/1 釉調:黄褐2.5Y5/4	良好	密	ﾛｸﾛ　灰釉　口縁ウノフ釉
3区	23-61	15	陶器	碗	(11.6)	—	＜5.9＞	口縁1/6～体部小	胎土:灰白2.5Y8/2 釉調:オリーブ褐2.5Y4/3	良好	密	ﾛｸﾛ　灰釉　口縁ウノフ釉
3区	23-62	15	陶器	碗	—	4.4	＜4.9＞	体部小～底部	胎土:灰白2.5Y8/2 釉調:暗オリーブ5Y4/3	良好	細砂粒含む　白色粒	ﾛｸﾛ　灰釉　削出高台
3区	23-63	15	陶器	灯明皿	(10.0)	—	＜2.1＞	口縁部	胎土:褐灰7.5YR6/1 釉調:にぶい赤褐5YR4/4	良好	密	外・内面:ﾛｸﾛ　ﾍﾗｹｽﾞﾘ　鉄釉
3区	23-64	15	陶器	灯明皿	(10.6)	—	＜1.9＞	口縁1/5	胎土:明褐灰7.5YR7/1 釉調:褐7.5YR4/4	良好	密	外・内面:ﾛｸﾛ　ﾍﾗｹｽﾞﾘ　鉄釉
3区	23-65	15	陶器	灯明受皿	(10.0)	(5.2)	＜2.1＞	口縁～底部1/8	胎土:灰白7.5YR8/1 釉調:明褐7.5YR5/6	良好	密	外・内面:ﾛｸﾛ　ﾍﾗｹｽﾞﾘ　鉄釉
3区	23-66	15	陶器	秉燭	4.9	3.5	3.7	完形	胎土:灰白2.5YR8/1 釉調:極暗褐7.5YR2/3	良好	密	ﾛｸﾛ　底面:回転糸切り痕　鉄釉
3区	23-67	15	陶器	仏飯器？	—	—	＜4.9＞	脚部～底部	胎土:にぶい黄橙10YR7/2 釉調:暗オリーブ褐2.5Y3/3	良好	密	ﾛｸﾛ　鉄釉
3区	23-68	15	陶器	仏飯器	—	(3.8)	＜2.3＞	脚部～底部	胎土:灰白5Y8/1 釉調:灰白7.5Y7/2	良好	密	外面:上部に灰釉　内面:灰釉
3区	23-69	15	陶器	蓋	(11.8)	(10.0)	1.9	口縁1/4～底部1/4	胎土:浅黄橙10YR8/3 釉調:灰黄褐10YR4/2	良好	密	ﾛｸﾛ　施釉上面鉄釉
3区	23-70	15	陶器	片口鉢	(13.6)	—	5.3	口縁1/5～体部	胎土:灰白5Y8/2 釉調:明黄褐2.5Y7/6	良好	密	ﾛｸﾛ　外・内面施釉　透明釉
3区	23-71	15	陶器	片口鉢	(18.0)	(7.2)	8.7	口縁～底部	胎土:にぶい黄橙10YR7/2 釉調:にぶい赤褐5YR4/4	良好	密	ﾛｸﾛ　外上部・内面:鉄釉　下部　無釉　高台部分　黒くｽｽ付着
3区	23-72	15	陶器	鉢	(30.0)	—	7.3	口縁1/8～体部1/8	淡黄2.5Y8/3	良好	密　長石	ﾛｸﾛ　外・内面施釉　灰釉
3区	23-73	15	陶器	擂鉢	—	(16.4)	＜12.4＞	底部1/5	胎土:淡黄2.5YR8/4 釉調:明赤褐5YR5/6	良好	密	ﾛｸﾛ　鉄釉　内面【大】刻印2個
3区	24-74	16	金属	煙管	(3.6)	(1.3)	(1.2)					吸口
3区	24-75	16	金属	煙管	＜4.8＞	1.1	0.6					吸口
3区	24-76	15	金属	甲州金	1.4	1.4	0.1					甲安中金　弐朱判
3区	24-77	16	金属	古銭	2.5	2.5	0.1					開元通寶
3区	24-78	16	金属	古銭	2.4	—	—					孔径0.7(cm)　元豊通寶？
3区	24-79	16	金属	古銭	2.5	2.5	0.1					寛永通寶
4区	27-1	16	土師質土器	かわらけ	(12.2)	—	＜1.3＞	口縁小	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む　赤色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
4区	27-2	16	土師質土器	かわらけ	—	(5.0)	2.1	体部1/4～底部1/4	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密　赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面:回転糸切り痕

※（数値）は復元値、＜数値は＞残存値

遺構名	図番号	写真図版番号	種別	器種	口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	部位	色調	焼成	胎土	備考
4区	27-3	16	土師質土器	かわらけ	(11.0)	(7.0)	1.9	口縁破片～底部1/4	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密　黒色粒・長石・石英	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面:回転糸切り痕
4区	27-4	16	土師質土器	かわらけ	—	(7.0)	＜1.4＞	体部小～底部1/2	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む　赤色粒・長石	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面:回転糸切り痕
4区	27-5	16	土師質土器	かわらけ	—	(6.0)	〈1.7〉	底部小	橙7.5YR6/6	良好	密　赤色粒・長石・石英	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面:回転糸切り痕
4区	27-6	16	土器	擂鉢	—	(11.0)	＜4.5＞	体部～底部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	密　赤色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面:ﾅﾃﾞ　外面:指頭痕　底面砂粒多い（内耳土器底に似る）
4区	27-7	16	陶器	常滑甕	—	(10.0)	＜4.4＞	体部～底部	胎土:灰白2.5Y7/1 釉調:オリーブ黄7.5Y6/3	良好	粗砂粒含む　白色粒	内面自然釉か
4区	27-8	16	土製品	土製円盤	(3.9)	(4.0)	(1.1)		にぶい橙7.5YR6/4（表面灰褐7.5YR4/2）	良好	密　長石・金色雲母	内耳土器底近くの胴部利用
4区	27-9	16	土製品	土製円盤	2.6	2.8	0.6		明赤褐5YR5/6	良好	密　長石・石英他砂粒多い	内耳土器の底を利用
4区	27-10	16	磁器	碗	(10.0)	—	＜4.5＞	口縁1/4	灰白5GY8/1	良好	密	染付　雪輪梅樹文　肥前18世紀代
4区	27-11	16	磁器	碗	(10.0)	—	＜4.5＞	口縁～体部小	明緑灰7.5GY8/1	良好	密	染付　肥前　コンニャク印判　18世紀代
4区	27-12	16	磁器	碗	(7.0)	—	4.0	口縁1/4～体部1/4	外面:明緑灰7.5GY7/1 内面:灰白　透明釉	良好	密	筒形碗　外面:青磁　内面:染付　肥前　18世紀後半
4区	27-13	16	磁器	皿	(13.0)	(6.8)	4.0	口縁1/8～底部1/8	灰白5GY8/1	良好	密	外・内面:染付　底面:圏線　染付　肥前18世紀後半
4区	27-14	16	磁器	皿	(18.4)	(10.8)	2.9	口縁～底部	胎土:灰白5Y8/1	良好	密	染付　肥前　19世紀
4区	27-15	16	磁器	瓶	(2.0)	—	5.4	口縁1/4～体部1/4	灰白2.5GY8/1	良好	密	染付　たこ唐草文　肥前　19世紀代？
4区	27-16	16	陶器	天目茶碗	(9.0)	—	＜2.9＞	口縁小	胎土:灰白2.5Y8/2 釉調:黒褐5YR2/2	良好	密	ﾛｸﾛ　鉄釉
4区	27-17	16	陶器	碗	(7.0)	—	＜3.7＞	口縁1/5	胎土:灰黄2.5Y7/2 釉調:黄褐2.5Y5/6	良好	密	ﾛｸﾛ　灰釉
4区	27-18	16	陶器	碗	—	(4.8)	4.4	体部1/4～底部1/8	灰白5Y7/1	良好	密	ﾛｸﾛ　刷毛目碗　全体施釉　肥前系
4区	27-19	16	陶器	碗	(11.0)	—	＜6.3＞	口縁1/6～体部小	胎土:灰白2.5Y8/2 釉調:暗褐10YR3/4	良好	密	ﾛｸﾛ　外・内面:灰釉　瀬戸・美濃
4区	27-20	16	陶器	碗	—	(5.1)	＜7.3＞	体部小～底部100%	胎土:灰白2.5Y8/2 釉調:褐10YR4/4	良好	密	ﾛｸﾛ　外・内面:灰釉　ウノフ釉　瀬戸・美濃
4区	27-21	16	陶器	碗	(12.4)	(4.8)	4.5	口縁1/5～底部1/5	胎土:灰白10YR8/2 釉調:浅黄橙10YR8/3	良好	密	ﾛｸﾛ　透明釉　京都系
4区	27-22	16	陶器	碗	(11.6)	—	＜3.0＞	口縁小～体部小	胎土:灰白5YR8/1 釉調:灰白2.5GY8/1	良好	密	ﾛｸﾛ　長石釉　志野焼
4区	27-23	16	陶器	皿	—	(7.6)	＜1.4＞	体部小～底部1/6	胎土:灰白5Y8/1 釉調:灰白2.5GY8/1	良好	密	ﾛｸﾛ　長石釉　志野焼
4区	27-24	16	陶器	おろし皿	—	(7.0)	1.4	体部1/4～底部1/4	灰白5Y8/1	良好	密	外面:ﾛｸﾛ　灰釉　内面:刻み　底面:回転糸切り痕
4区	27-25	16	陶器	灯明受皿	(11.2)	(6.0)	2.4	口縁～底部	にぶい褐7.5YR5/3	良好	密	ﾛｸﾛ　ﾍﾗｹｽﾞﾘ　鉄釉　口縁に炭化物付着
4区	27-26	16	陶器	灯明受皿	(10.6)	(4.6)	2.0	口縁～底部	灰黄2.5Y7/2	良好	密	ﾛｸﾛ　ﾍﾗｹｽﾞﾘ　灰釉

※（数値）は復元値、＜数値は＞残存値

遺構名	図番号	写真図版番号	種別	器種	口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	部位	色調	焼成	胎土	備考
4区	27-27	16	陶器	灯明受皿	(11.0)	(6.0)	1.8	口縁～底部	胎土:にぶい黄橙10YR7/3 釉調:黒褐7.5YR3/1	良好	密	ﾛｸﾛ　ﾍﾗｹｽﾞﾘ　鉄釉
4区	27-28	16	陶器	仏飯器？	—	(6.0)	3.0	体部～底部1/4	灰黄2.5Y7/2	良好	密	ﾛｸﾛ　一部灰釉
4区	27-29	16	陶器	仏飯器？	—	(5.2)	＜3.3＞	脚部1/4	胎土:淡黄2.5Y8/3 釉調:浅黄橙2.5Y7/4	良好	密	ﾛｸﾛ　皿部灰釉
4区	27-30	16	陶器	擂鉢	—	(15.0)	＜7.3＞	底部1/5	胎土:淡黄2.5Y8/3 釉調:にぶい赤褐5YR4/4	良好	密	ﾛｸﾛ　鉄釉　底面:回転糸切り痕
4区	28-31	16	土師質土器	かわらけ	(6.4)	(4.8)	＜1.4＞	口縁～底部1/4	橙5YR6/6	良好	密　赤色粒・長石・石英	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面:回転糸切り痕
4区	28-32	16	土師質土器	かわらけ	(9.8)	(5.0)	2.1	口縁～底部	にぶい褐7.5YR6/4	良好	細砂粒含む　赤色粒・白色粒・長石・石英	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　底面:回転糸切り痕　上部炭化物付着
4区	28-33	16	土器	香炉	—	(7.0)	3.2	体部～脚部	橙5YR6/6	良好	密　赤色粒・金色雲母	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ　内面:ﾖｺﾅﾃﾞ　脚3ヶ所？
4区	28-34	16	土器	火鉢（香炉）	(11.2)	(10.0)	6.1	口縁1/4～底部1/4	にぶい橙7.5YR6/4	良好	砂礫含む　白色粒	外・内面:ﾛｸﾛ　ﾅﾃﾞ
4区	28-35	16	土器	香炉	(13.6)	(12.0)	＜5.1＞	口縁～底部小	橙5YR6/6	良好	密　長石・石英・金色雲母　砂粒多い	内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　外面　摩滅　ｽｽ付着
4区	28-36	16	土器	内耳土器	(24.4)	(21.0)	8.9	口縁～底部	外面:にぶい橙7.5YR6/4 内面:にぶい赤褐5YR4/3	良好	密　赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
4区	28-37	16	土器	内耳土器	(27.8)	(26.0)	4.7	口縁～底部	にぶい橙5YR6/4	良好	細砂粒含む　白色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面:ﾛｸﾛﾅﾃﾞ
4区	28-38	16	土製品	人形類	＜1.6＞	2.4	0.9	体部	にぶい黄橙10YR7/2	良好	密	
4区	28-39	16	金属	煙管	6.7	1.15	0.9	吸口				吸口
4区	28-40	16	金属	古銭	2.25							孔径　0.6(cm)　寛永通寶
4区	28-41	16	石製品	石臼	〈15.0〉	〈10.0〉	〈7.8〉	上臼破片1/5	灰白7/1	良好	粗	直径(14.0)cm　安山岩　磨面は摩耗が進み片減りして傾いている
4区	28-42	16	石製品	石臼	＜22.8＞	＜12.3＞	＜12.0＞	上臼破片1/5	灰白10Y7/1	良好	黒色粒・長石	直径(30.0)cm　安山岩
4区	28-43	16	石製品	石臼	＜25.4＞	＜12.5＞	＜11.6＞		灰白10Y7/1	良好	長石・石英	直径(17.0)cm　安山岩
4区	28-44	16	石製品	軸受石？	(9.3)	(10.0)	7.2	口縁～底部1/4	灰白10Y7/1	良好	長石・石英	安山岩

第4章　まとめ

第1節　栗原氏屋敷跡の遺構

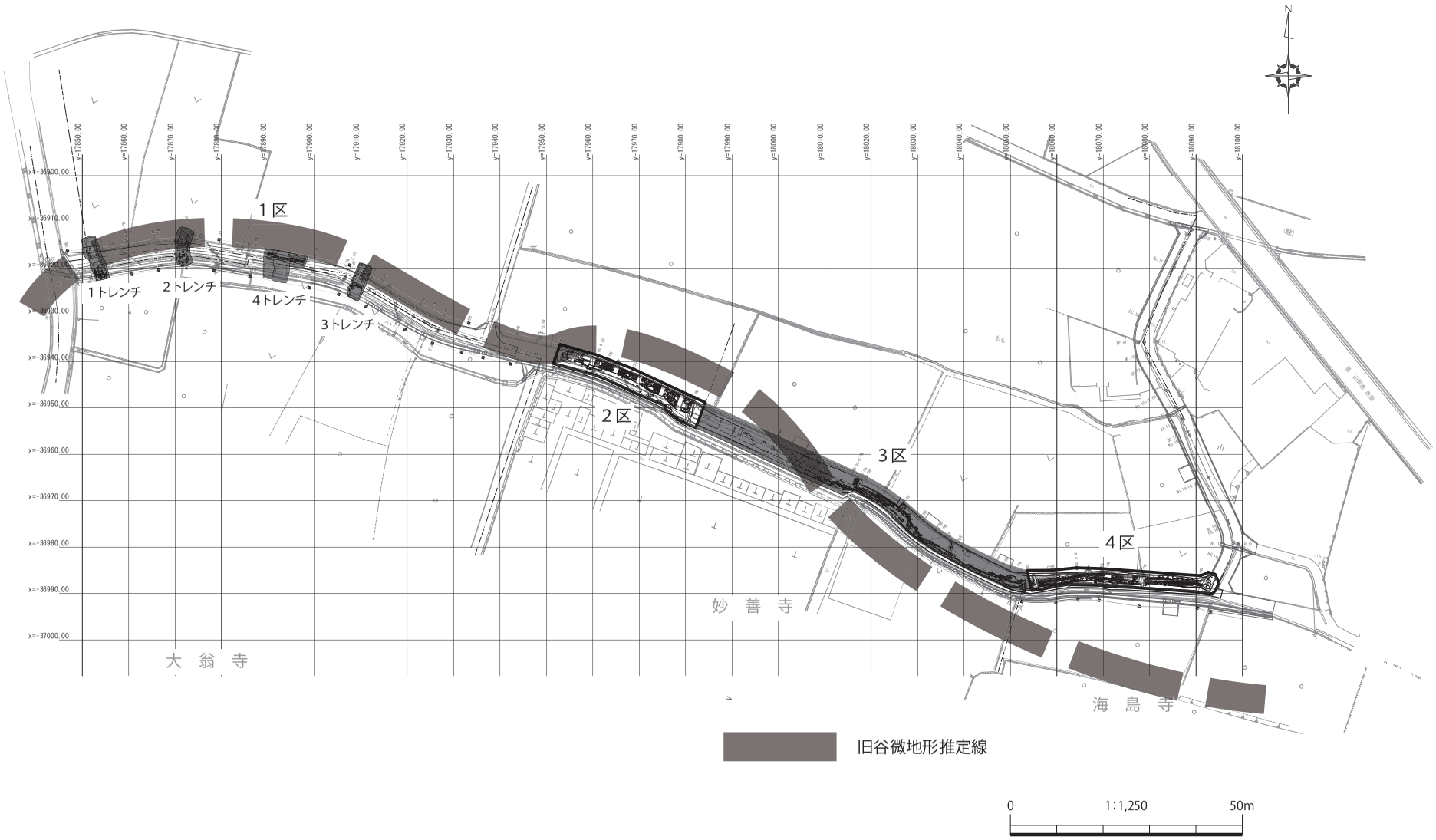
今回の発掘調査では平安時代･中世の遺物をともなう落ち込み･石列･溝状遺構、中世の遺物集中地点、近世の水路・道、近代の石列・畑の畝が検出された。（第 29 図）。大翁寺北側の1区では明確な堀や土塁の遺構は確認できなかったが、西側では水流の強い流路があった状況が確認できた。また、東側では落ち込み・石列・溝状遺構を検出した。平安・中世・近世の遺物が出土している。

妙善寺北側の2区、3区では、3区の西側で中世の遺物集中地点を検出した。3区の東側では現況とは流路の異なる近世の水路を検出した。多量な近世の陶磁器類とともに近世の甲州金（新甲金）が出土した。2区では地山の礫層高いことが分かった。明確な遺構はないが地山礫層状の水性堆積の砂礫層からは中世・近世の遺物が出土している。この砂礫層の遺物の中に小破片ではあるが溶融物が付着した土器の小皿が出土している。何らかの金属を溶融させる作業の道具の可能性がある。また、地山礫層が落ち込む地点では平安時代の坏があまり破片にならずに出土している。4区では3区から続く近世の水路と水路の南側を沿う道を検出した。また、4区の東側では近世の水路の上に近代の石列と畑の畝を検出した。石列と畑の畝は明治 40 年の水害時に堆積したと考えられる厚い白砂層に覆われていた。3区と 4 区では地山の礫層は厚く堆積した砂層の下の深い位置で検出された。

地山の礫層の検出位置の違いなどから埋没した谷の旧地形を考えることができた。1区の西側では強い水流が流れることが分かり、谷地形のより深い中央部に近い方であったと考えられる。1区の東側では谷地形は始まっているが強い水流は流れてこない谷端の裾部と考えられる。2 区と3区の西側では地山が張り出していて、谷はより北側を回っていることが分かった。3区の東側と4区では調査区の南側まで谷が入ることが分かった。これは日川の旧流路が蛇行することによる埋没した微地形の変化と考えられる。3区西側の地山の張り出しは平場として中世には利用されていたと考えられる。また、1区東側にみられる谷地形の裾部には石列をともなう溝、あるいは道を整備していたことも考えられる。

近世の水路から出土した金貨には表面に「貳朱」、「五三の桐紋」、「松木」の験極印が見られ、裏面の中央部に「甲」、下部に「安」の極印が打刻されている。このことから、この金貨は宝永4年（1707）に柳沢吉保が元禄金に準じて改鋳を行った「甲安中金」の弐朱判であると考えられた。甲斐黄金村湯之奥金山博物館のご指導の下、西脇康氏に密度測定による金品位の推定をして頂いた。測定結果を以下に記す。

古金貨密度測定結果
2018 年 7 月 27 日　於東京大学史料編纂所 302 号室　海外S科研
測定者　西脇　康（東京大学史料編纂所所員・東京国立博物館客員研究員・日本計量史学会理事）
立会者　高野髙潔（昭和測量株式会社文化財調査課調査研究員）
測定機器　メトラー社電子天秤（AG204　1122061617　2018 年 6 月 19 日メトラー校正済）
　　および密度キット
測定環境　工業用純水内に水没　水温 28.1℃（自動校正）
試　料　　甲州金　新甲金　甲安中金（収集界通称は下安金）　弐朱判
質　量　　1.８８　グラム


1区
2区
3区
4区
1トレンチ
2トレンチ
3トレンチ
4トレンチ
大 翁 寺
妙 善 寺
海 島 寺
旧谷微地形推定線
0
1:1,250
50m

第 29 図　全体図

密度測定　① 13.68　② 13.76　③ 13.69
密　度（中央値を採用）　１３.６９　→１３.７
推定金品位　５１.１６　→５１.２

測定の結果、金の推定品位から、水路より出土した甲州金は新甲金の甲安中金の金品位と合致することがわかった。甲安中金は金品位が低い金貨であり、後の甲重金や甲定金の方が、甲安中金よりも高い金品位で改鋳されている。このため、甲安中金を改鋳へと手放す動きが進んだ結果、現存するものが少なく、希少な資料であることが分かった。

また、甲安中金は宝永 4 年（1707）に製造が開始され、宝永 8 年（1711）までの 4 年間という通用期間の短い金貨である。この期間内に金貨が水路に混入した可能性が高いことから、宝永年間にはすでに水路は検出されたような分岐ルートを流れていたと考えられる。3区で検出された現況の水路とは異なるこの分岐ルートは更に時代をさかのぼり、1 区で落ち込みの最下部から検出された平安時代・中世の遺物をともなう石列・溝状遺構へと続いていたことも考えられる。

今回の発掘調査の結果、栗原氏屋敷跡の北辺は現況よりも深い谷地形を持ち、幾度も強い水流が流れるような状況であったことがわかった。また、中世の栗原氏拠点の地ばかりでなく近世には甲州金が流通するような繁華な宿駅の地であったことが分かった。また、甲州金が出土し宝永年間にはすでに整備されていたと考えられる分岐を持つ水路のルートが、更に時代をさかのぼり栗原氏屋敷跡の北辺を流れていたことも考えられた。平安時代から明治 40 年の水害に至るまでの日川の影響を受けた地形成形の微細な状況も明らかにすることができた。

引用・参考文献

西脇　康　2016『甲州金の研究』（日本史史料研究会研究選書 11)
日川村誌編纂委員会 1959『日川村誌』
山梨市役所 2005『山梨市史』史料編考古・古代・中世
『甲斐国志』第一巻（大日本地誌大系 44）1968 佐藤八郎校訂、雄山閣

第2節　栗原氏屋敷跡の中世土器（第 30 図・31 図）

今次の発掘調査により出土した中世土器について概要を整理する。量は少ないものの器種には、かわらけ・内耳土器・鉢・擂鉢等がみられる。これにわずかながら天目茶碗、常滑甕、美濃大窯期灰釉丸皿等の陶器破片が伴う。

最も出土量が多かったのは、器壁が薄めで口縁の肥厚は少なく全体に深めの器形をなす一群である。破片資料ながら3区にてまとまっており、口径から概ね三群に分類が可能であり第 30 図に示した。6.0 ～ 9.5㎝、10.0 ～ 12.0㎝、12.1㎝以上という三区分である。それぞれの群においても細部の形態には多様性がある。口縁が外反（6,7,15,27,33 等）、やや内湾（13,14,17,19,22,29 等）、直線的（10、11,16,18,30,31,32 等）などである。全体的にはやや内湾気味及び直線的で深めのタイプが多い。この傾向は1区・2区にも共通する（第 29 図）。これら大中小のかわらけがセットとなって使用されたものと思われるが、時期差も考える必要があり形態と時期の関係や組み合わせは今後の課題でもある。

伴出遺物には土製雑器や陶器類がある。1区では大中小のかわらけと共に内耳土器（第 29 図 4-10）及び鉄釉天目茶碗（4-9）がある。内耳土器は深めのもの。2区では内耳土器に加え土製擂鉢、鉄釉天目とみられる胴部破片（9）、陶器片口鉢（14）がある（第 29 図）。また 10 は金属の溶融に用いたとみられる容器破片であり金も含めて対象物が問題となる。3区でも内耳土器（第 30 図 37）と土製擂鉢（39）が伴う。さらに大窯期の灰釉丸皿（36）も破片ながら1点出土した。16 世紀代に位置づけられるものであるが、この時期に特徴的なかわらけは少ないものの第 30 図 8、14、17 等はその可能性はある。

以上のように少ない出土品ではあるが、かわらけに内耳土器や土製擂鉢などの日常雑器が伴っている。これに天目茶碗が出土するとすれば館跡という性格も当てはまろうか。

時期について今回出土のかわらけの多くは、まず岩崎氏館跡に類例が求められる（山梨県教育委員会 1977）。岩崎氏館跡出土遺物は 13 世紀中～ 15 世紀中と位置づけられており、特に跡部氏との敗戦後 15 世紀中頃廃絶したとされることから（山梨県 2004）時期特定が可能な資料である。また佐々木満氏によって 12 世紀から 17 世紀までの土器編年が組み立てられており、ここでも岩崎氏館跡や秋山氏館跡の資料が参照されている（佐々木 2004）。内耳土器にしても佐々木氏の編年では 15 世紀初頭にはすでに認められており、さらに本遺跡に近い連方屋敷では土師質の丸底タイプ内耳土器が出土することからここに一つの画期の可能性が求められている（佐々木 2011）。擂鉢については、16 世紀前半には瓦質製品は消滅し土製が普及するとされる。本遺跡でも土製擂鉢が伴っており、どこまで遡るかが課題となる。以上、かわらけ、内耳土器、擂鉢等の組み合わせからすると 15 世紀から 16 世紀代に置かれることは確かと思われるが、かわらけからみて岩崎氏館跡や連方屋敷の事例（山梨市役所 2005）を参考にすると、多くは 15 世紀代に位置付けることができるのではないか。但し大中小の規格が認められたかわらけについては、セットということに加えて時期差も考える必要がある。特に 16 世紀後半では大小の変化にも富む傾向がある。

なおかわらけについては、3区で確認された胎土砂質のロクロ成形製品にふれておく（第 30 図 2.3.4）。法量は小さいが胎土や器形が 13 世紀代とされる甲府市小瀬氏館跡、韮崎市大輪寺東遺跡、北杜市当町遺跡等の例に類似する（伊藤 1989）。但し江戸初期の可能性もあり検討が必要である。

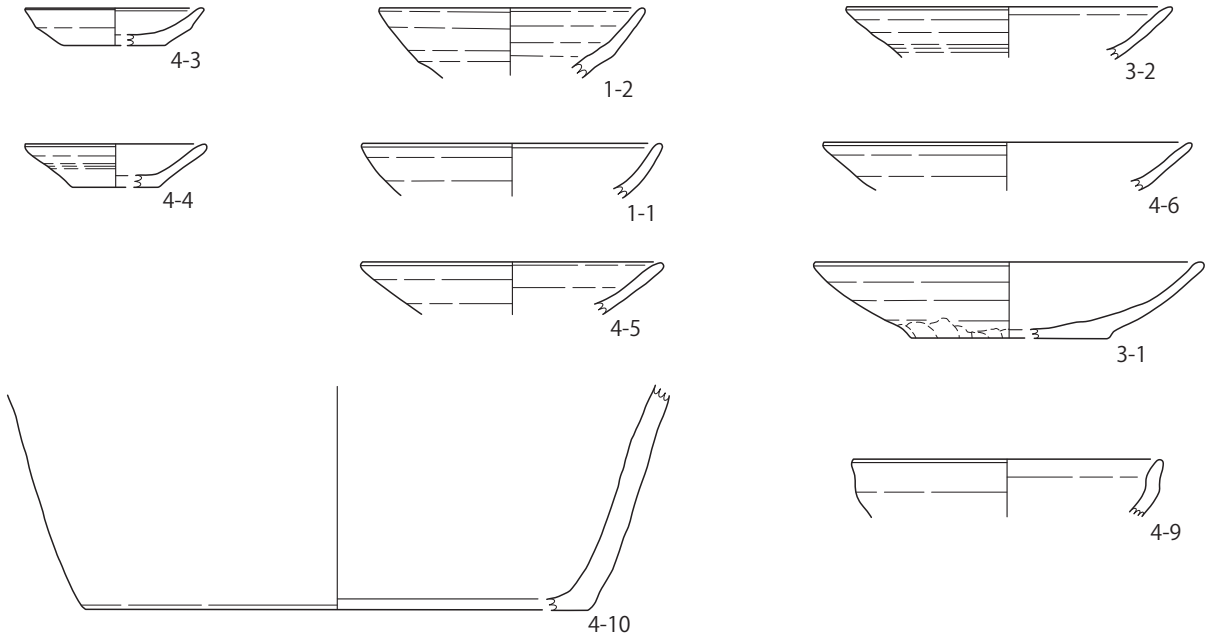
今回の調査範囲は栗原氏館跡とされる一隅にあたるものの発掘範囲が限られていることから、明確な遺構やそれに伴う十分な遺物は得られなかった。しかし 15 世紀代を中心として 16 世紀代にまで至るかわらけ一群とそれに伴う雑器も確認することができた。今後の調査に期待したい。

なお3・4区を中心に江戸後期の陶磁器類も多く出土した。この地区には該期の水路が走り、さらに近隣は甲州道中が通り宿駅も設けられていた地域である。17 世紀代の志野焼陶器も少量あるが、磁器の大半は 18 世紀後半の肥前及び 19 世紀代の瀬戸・美濃製品であった。陶器にも瀬戸・美濃系碗や鉄釉灯明具等が目立つ。甲州金「甲安中金」も水路沿いから出土しており、館跡廃絶後も主要路沿いの集落や寺院関連地域として発展していたことが確認できよう。

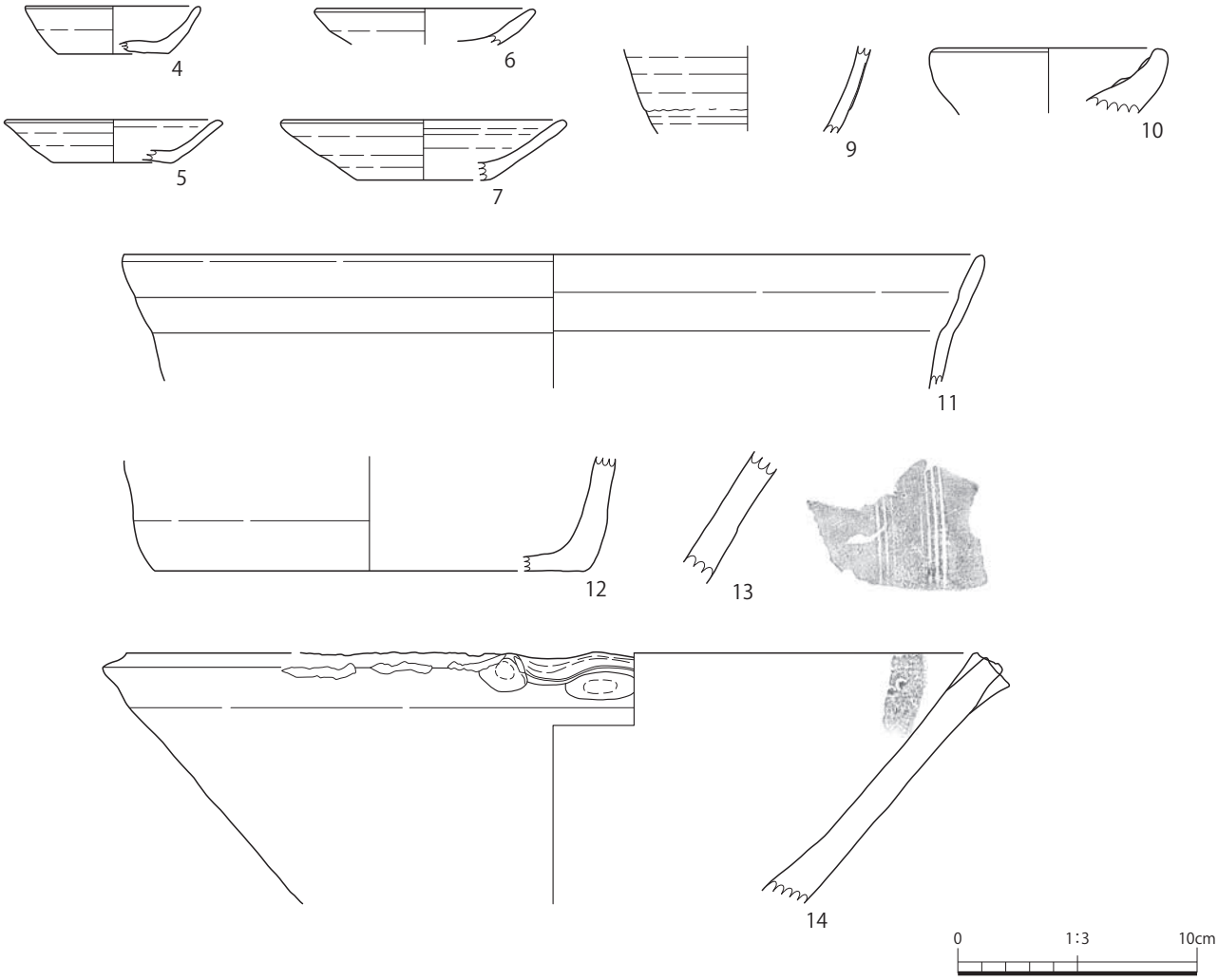
引用文献

伊藤正幸 1989「甲斐国における中世後半の土器様相」『山梨県考古学論集』Ⅱ　山梨県考古学協会
佐々木満 2004「山梨における中近世土器の様相」『山梨県考古学論集』Ⅴ　山梨県考古学協会
佐々木満 2011「山梨における中近世土器の様相」『山梨県考古学論集』20 号　山梨県考古学協会
山梨県教育委員会 1977『(伝) 岩崎館跡発掘調査報告書』
山梨市役所 2005『山梨市史』史料編考古・古代・中世
山梨県 2004『山梨県史』資料編 7 中世 4 考古資料

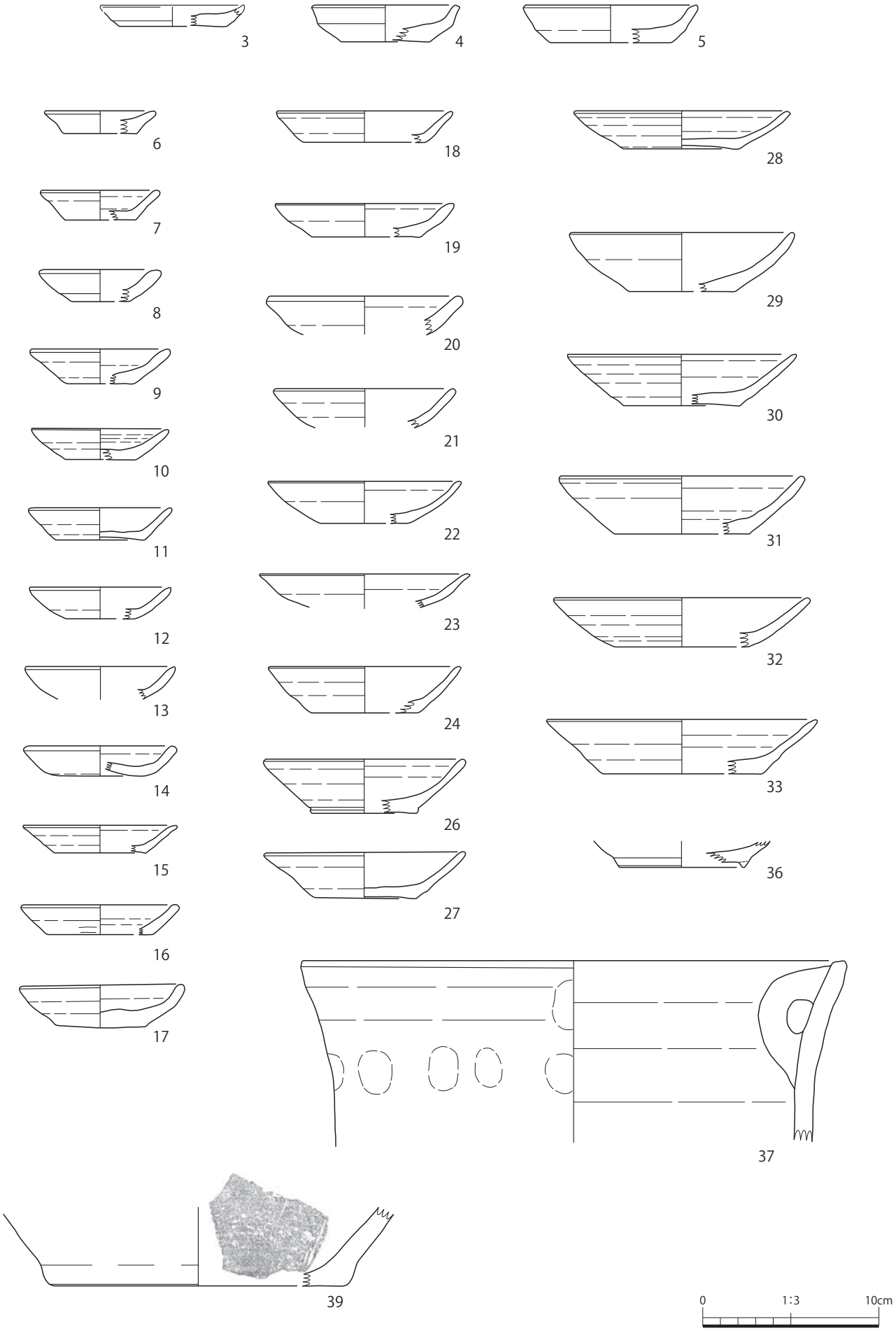
1区（1～4トレンチ）



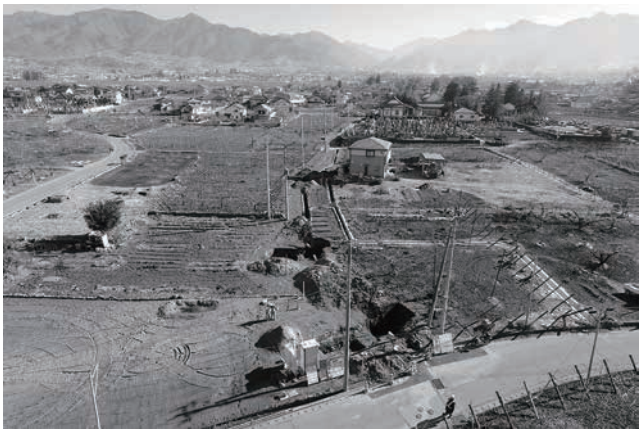
2区



第30図　1区・2区　中世土器・陶器



第 31 図　3 区　中世土器・陶器



調査区遠景（西から）

調査区全景西側（1 区：北から大翁寺を望む）

調査区全景中央（2 区・3 区：北から妙善寺を望む）

調査区全景東側（4 区：北から海島寺を望む）

調査区遠景（東から）

調査前（西から）

調査中（西から）

調査後（西から）

図版 2

1 区 1 トレンチ　検出状況（東から）

1 区 1 トレンチ　検出状況（北から）

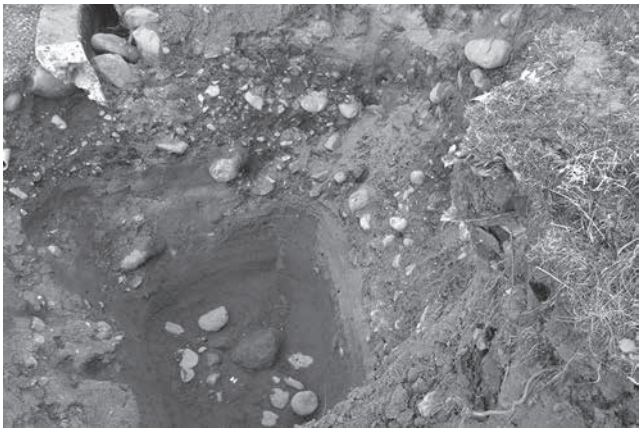
1 区 1 トレンチ　検出状況（東から）

1 区 1 トレンチ　検出状況（北から）

1 区 2 トレンチ　検出状況（西から）

1 区 2 トレンチ　検出状況（西から）

1 区 2 トレンチ　検出状況（南から）



1 区 2 トレンチ　検出状況（西から）

1 区 3 トレンチ　検出状況（西から）

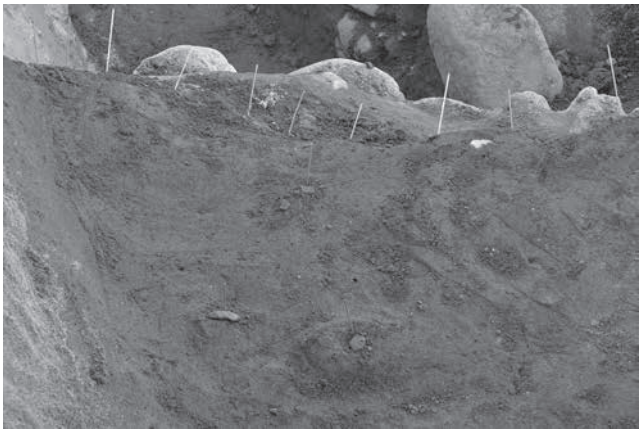
1 区 3 トレンチ　検出状況（北から）

1 区 3 トレンチ　検出状況（南から）

1 区 3 トレンチ　遺物出土状況（西から）

1 区 3 トレンチ　検出状況（東から）

1 区 4 トレンチ　遺物出土状況



1 区 4 トレンチ　遺物出土状況（西から）

1 区 4 トレンチ　検出状況（東から）

図版４

1区4トレンチ　検出状況（南から）

1区4トレンチ　検出状況（西から）

1区4トレンチ　検出状況（東から）

1区4トレンチ　検出状況（東から）

1区4トレンチ　検出状況（東から）

1区4トレンチ　作業風景（西から）

1区4トレンチ　堆積状況（西から）

1区4トレンチ　石列（西から）

1 区 4 トレンチ　石列（北から）

1 区 4 トレンチ　石列（東から）

1 区 4 トレンチ　石列（西から）

1 区 4 トレンチ　作業風景（東から）

2 区　全景（北から）

2 区　作業風景（東から）

2 区　検出状況（東から）

2 区　検出状況（西から）

図版 6

2 区　検出状況（東から）

2 区　検出状況（南から）

2 区　遺物出土状況

2 区　検出状況（南から）

2 区　検出状況（西から）

2 区　検出状況（東から）

2 区　検出状況（西から）

2 区　検出状況（東から）

2 区　検出状況（西から）

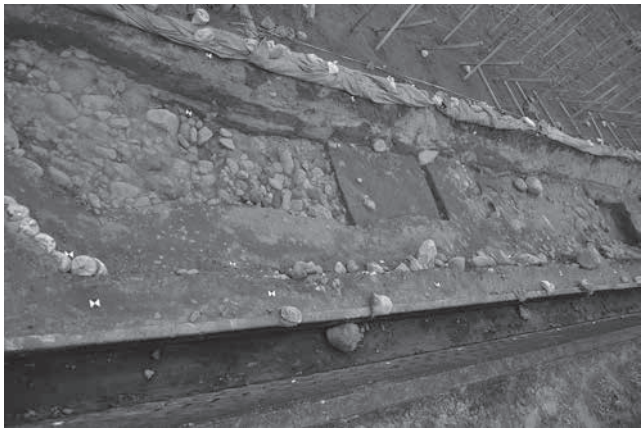
2 区　遺物出土状況（北から）

2 区　遺物出土状況（北から）

2 区　遺物出土状況（北から）

3 区　全景（北から）

3 区　全景（北から）



3 区　検出状況（南から）

3 区　遺物出土状況

図版８

3 区　作業風景（東から）

3 区　検出状況（東から）

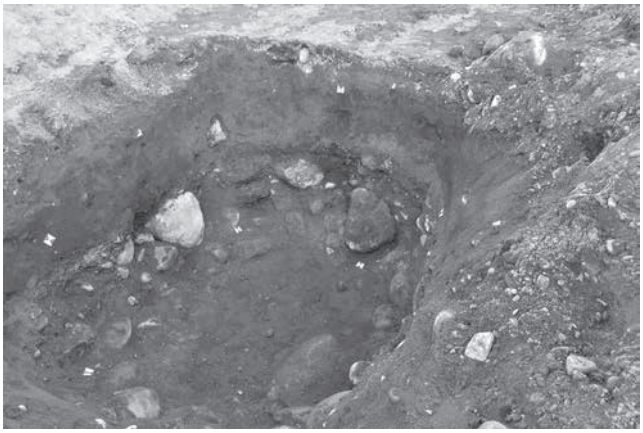
3 区　遺物出土状況

3 区　遺物出土状況

3 区　遺物出土状況（北から）

3 区　下層確認状況（北から）

3 区　下層確認状況（北から）



3 区　下層確認状況

3 区　水路検出状況（西から）

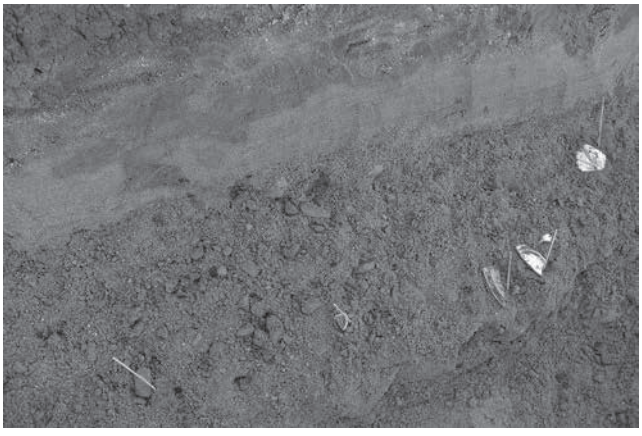
3 区　作業風景（西から）

3 区　作業風景（東から）

3 区　作業風景（東から）

3 区　水路堆積状況（西から）

3 区　遺物出土状況（北から）

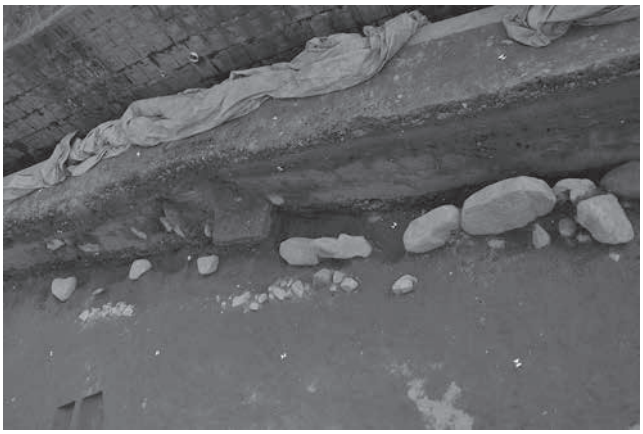


3 区　遺物出土状況（北から）

3 区　遺物出土状況

図版 10

3 区　水路検出状況（西から）



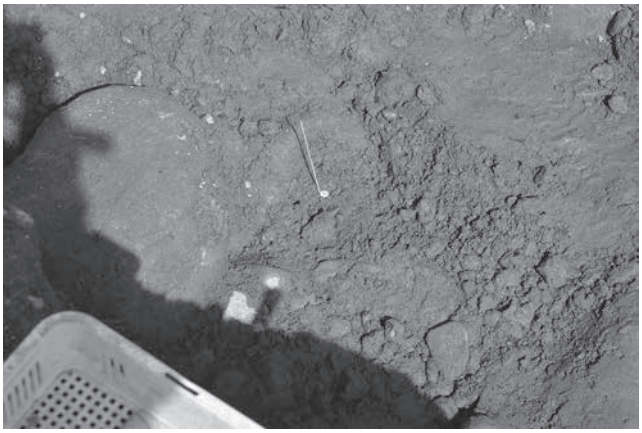
3 区　水路検出状況（北から）

3 区　水路検出状況（北から）

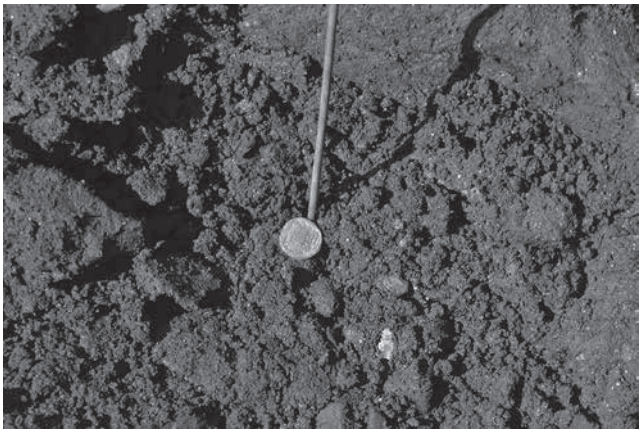
3 区　遺物出土状況（北から）

3 区　水路検出状況（北から）

3 区　下層確認状況（東から）



3 区　甲州金出土状況（東から）

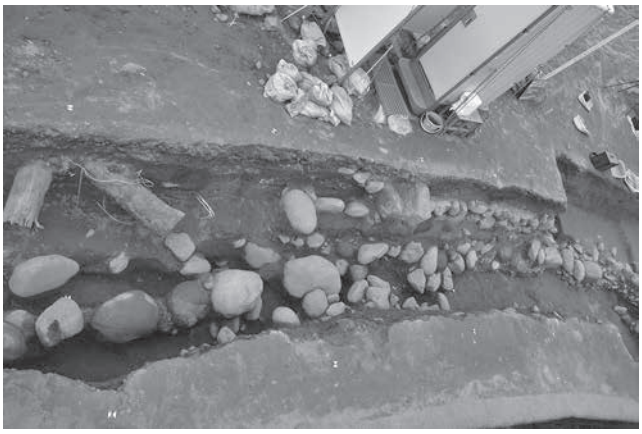


3 区　甲州金出土状況（北から）

3 区　水路検出状況（西から）

3 区　水路検出状況（北から）

3 区　水路検出状況（東から）



3 区　水路検出状況（南から）

3 区　水路検出状況（西から）

3 区　水路検出状況（南から）

3 区　水路検出状況（東から）

3 区　水路検出状況（西から）

図版 12

4 区　全景（北から）

4 区　作業風景（東から）

4 区　畑検出状況（西から）

4 区　畑検出状況（東から）

4 区　遺物出土状況（西から）

4 区　作業風景（東から）

4 区　水路検出状況（西から）

4 区　水路検出状況（東から）

4 区　水路検出状況（西から）

4 区　水路検出状況（東から）

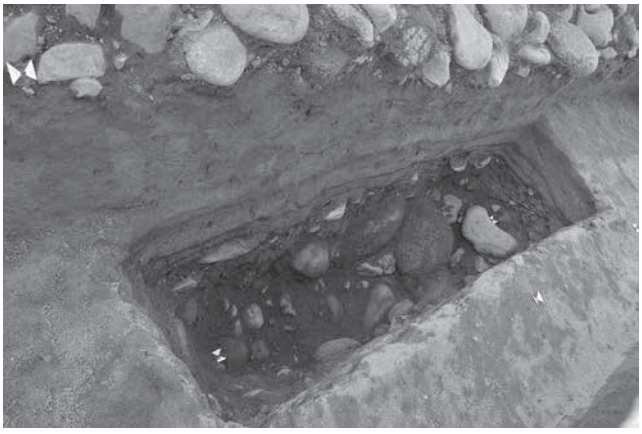
4 区　水路検出状況（北から）

4 区　水路検出状況（西から）

4 区　水路検出状況（西から）

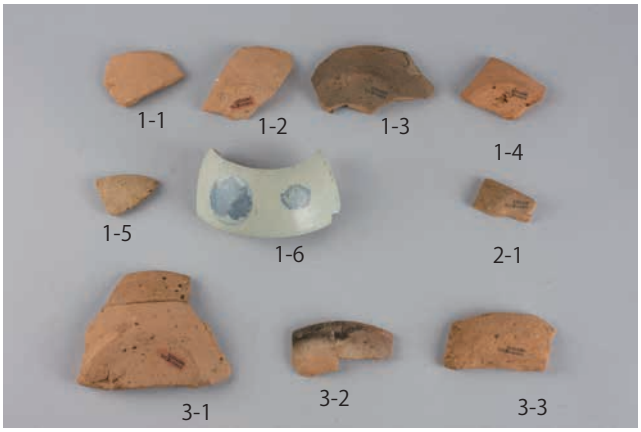
4 区　遺物出土状況（東から）

4 区　下層確認状況（南から）



4 区　下層確認状況（北から）

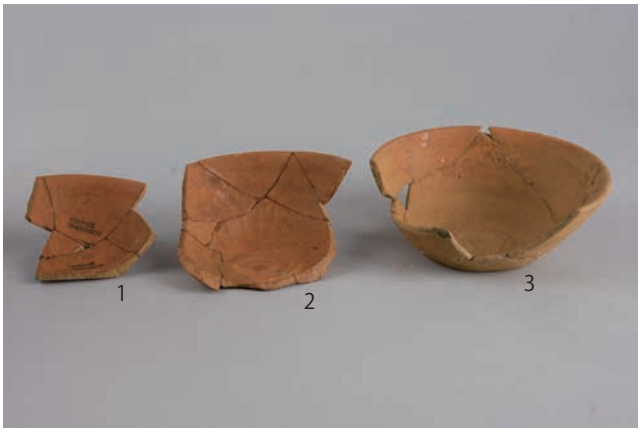
図版 14



1 区 1 ～ 3 トレンチ

1 区 4 トレンチ

1 区 4 トレンチ



2 区

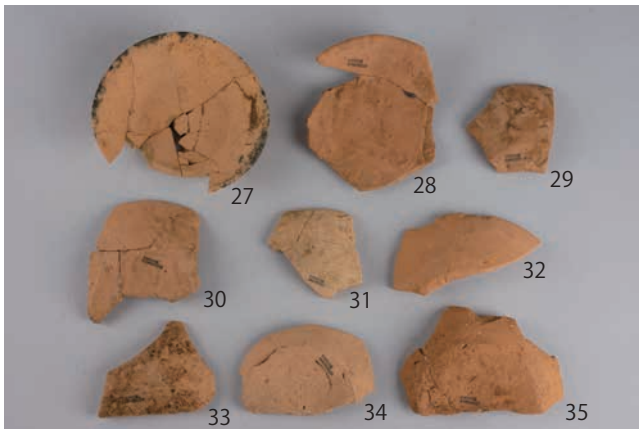
2 区

2 区

3 区

3 区

3 区



3 区

3 区

3 区

3 区

3 区

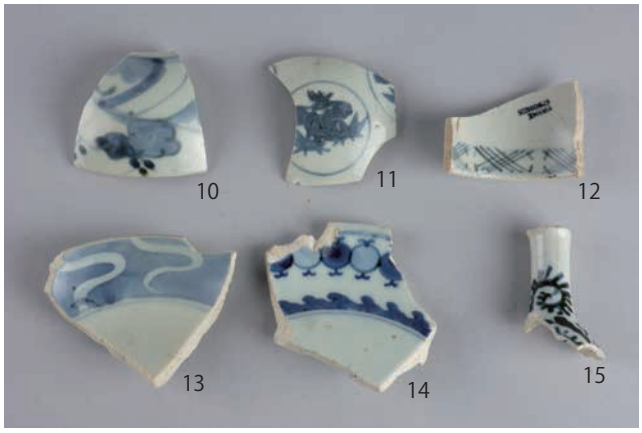
3 区

3 区

図版 16

3 区

4 区



4 区

4 区

4 区

4 区

4 区

4 区

3 区　古墳・平安

3 区　中世

3 区　近世

3 区　近世

3 区　近代

4 区　近世・近代

報告書抄録

フリガナ	ニシダイセキ・クリハラシヤシキアト
書名	西田遺跡・栗原氏屋敷跡
副書名	県営畑地帯総合整備事業上栗原地区農道２号 (1 工区) 改良工事に伴う発掘調査報告書
編著者名	雨宮弘聡（山梨市教育委員会）／髙野高潔（昭和測量株式会社）
編集機関	山梨県峡東農務事務所／山梨市教育委員会／昭和測量株式会社
所在地	〒 404-8601　山梨県甲州市塩山上塩後 1239-1　TEL 0553-20-2706 〒 405-8501　山梨県山梨市小原西 843　TEL 0553-22-1111 〒 400-0032　山梨県甲府市中央 3-11-27　TEL 055-235-4448
発行年月日	西暦　2019（平成 31）年　3 月 15 日

フリガナ	フリガナ	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				(㎡)	
ニシダイセキ 西田遺跡 クリハラシヤシキアト 栗原氏屋敷跡	ヤマナシケン 山梨県 ヤマナシシカミクリバラ 山梨市上栗原 アザニシダ 字西田 11 番 5 外	19205	05139 05178	35° 40′ 00″	138° 41′ 53″	20171215 ～ 20180320	722	農業基盤整備事業（農道）

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西田遺跡	散布地	中世	溝状遺構	土師質土器、土器、陶器	
栗原氏屋敷跡	城館跡	近世	溝状遺構、水路	土器、陶器、磁器、銭貨、金属製品、石製品	

山梨市文化財調査報告書　第 32 集

西田遺跡・栗原氏屋敷跡

－県営畑地帯総合整備事業上栗原地区農道２号 (1 工区) 改良工事に伴う発掘調査報告書－

発　行　日　平成 31 年 3 月 15 日

編　　集　昭和測量株式会社

〒 400-0032　山梨県甲府市中央 3-11-27　TEL 055-235-4448

発　　行　山梨県峡東農務事務所

山梨市教育委員会

昭和測量株式会社

印刷・製本　株式会社　内田印刷所

〒 400-0032　山梨県甲府市中央 2-10-18　TEL 055-233-0188